シラバス

2023年度

理学療法学科　昼間コース

学校法人　巨樹の会

八千代リハビリテーション学院

2023年度　八千代 リハビリテーション学院　【理学療法学科　昼間コース】カリキュラム

分野	教育内容	指導要領	授業科目	1年		2年		3年		時間数	単位数
				前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活社会の理解	人文科学	心理学	30						30	2
		自然科学	統計学				30			30	2
			情報処理				30			30	2
			物理学	30						30	2
		コミュニケーション学	基礎教養	30						30	2
			対人関係演習Ⅰ	30						30	2
			対人関係演習Ⅱ		30					30	2
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	解剖学Ⅰ	30						30	2
			解剖学Ⅱ		30					30	2
		生理学	生理学Ⅰ	30						30	2
			生理学Ⅱ		30					30	2
		運動学	運動学Ⅰ	60						60	4
			運動学Ⅱ		30					30	2
			運動学演習Ⅰ	30						30	2
			運動学演習Ⅱ		30					30	2
		人間発達学	人間発達学		30					30	2
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーションの基礎	リハビリテーション基礎医学Ⅰ	30						30	2
			リハビリテーション基礎医学Ⅱ		30					30	2
		臨床医学総論	医学概論	30						30	2
			病理学概論			30				30	2
		臨床医学各論	整形外科学			30				30	2
			内科学			30				30	2
			神経内科学			30				30	2
			臨床心理学		30					30	2
			精神医学		30					30	2
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論・医学	リハビリテーションと理学療法Ⅰ	30						30	2
			リハビリテーションと理学療法Ⅱ	30						30	2
専門分野	基礎理学療法学	理学療法学	基礎理学療法学Ⅰ	30						30	1
			基礎理学療法学Ⅱ		30					30	1
			生活機能演習				30			30	1
		臨床運動学	臨床運動学演習Ⅰ		30					30	2
			臨床運動学演習Ⅱ				30			30	2
	理学療法管理学	理学療法管理	理学療法管理学					30		30	2
	理学療法評価学	理学療法評価学	基礎評価学演習Ⅰ	60						60	2
			基礎評価学演習Ⅱ		60					60	2
			基礎評価学演習Ⅲ			60				60	2
			臨床評価学演習Ⅰ	30						30	1
			臨床評価学演習Ⅱ		30					30	1
	理学療法治療学	運動療法学	運動療法学演習		60					60	2
		物理療法学	物理療法学		30					30	1
		日常生活活動学	日常生活活動学演習Ⅰ			30				30	1
			日常生活活動学演習Ⅱ				30			30	1
		義肢装具学	義肢学			30				30	1
			装具学				30			30	1
		疾患別理学療法学	中枢神経疾患の理学療法学Ⅰ			60				60	2
			中枢神経疾患の理学療法学Ⅱ				60			60	2
			運動器疾患の理学療法学Ⅰ			60				60	2
			運動器疾患の理学療法学Ⅱ				60			60	2
			内部障害系疾患の理学療法学Ⅰ			60				60	2
			内部障害系疾患の理学療法学Ⅱ				60			60	2
			小児疾患の理学療法学				30			30	1
			理学療法学技術演習Ⅰ			60				60	2
			理学療法学技術演習Ⅱ				60			60	2
		理学療法総合学習	理学療法学総合学習Ⅰ						60	60	2
			理学療法学総合学習Ⅱ						60	60	2
			理学療法学総合学習Ⅲ						60	60	2
	地域理学療法学	地域理学療法学	生活環境学				30			30	2
			地域理学療法学演習				30			30	2
	臨床実習	臨床実習	臨床実習Ⅰ		45					45	1
			臨床実習Ⅱ				45			45	1
			臨床実習Ⅲ					360		360	8
			臨床実習Ⅳ					450		450	10
			基礎分野	120	30	0	60	0	0	210	14
			専門基礎分野	270	240	120	0	0	0	630	42
			専門分野	120	240	360	450	30	180	1380	51
			実習	0	45	0	45	810	0	900	20
			前期・後期小計	510	555	480	555	840	180	3120	127
			前後期合計	1065		1035		1020			

＊基礎分野：講義15～30時間1単位
＊専門基礎分野：講義・演習15～30時間1単位
　　実習30～45時間1単位
＊専門分野：同上
＊臨床実習：40～45時間1単位

2022年度シラバス　科目・講師名一覧

理学療法学科昼間コース　基礎分野

科目名	開講年次	講師名
心理学	理学療法学科　1年昼前期	小野田 聡子
統計学	理学療法学科　2年昼後期	松葉 潤治
情報処理	理学療法学科　2年昼後期	高坂 信太郎
物理学	理学療法学科　1年昼前期	西尾 静恵
基礎教養	理学療法学科　1年昼前期	加藤 智彦
対人関係演習Ⅰ	理学療法学科　1年昼前期	石渡 みどり・宮野 慎太郎 古井 雅也・百代 貴子
対人関係演習Ⅱ	理学療法学科　1年昼後期	宮野 慎太郎・ 古井 雅也・百代 貴子

理学療法学科昼間コース　専門基礎分野

科目名	開講年次	講師名
解剖学Ⅰ	理学療法学科　1年昼前期	松永 智
解剖学Ⅱ	理学療法学科　1年昼後期	北村 泰子
生理学Ⅰ	理学療法学科　1年昼前期	田﨑 裕紀
生理学Ⅱ	理学療法学科　1年昼後期	田﨑 裕紀
運動学Ⅰ	理学療法学科　1年昼前期	仲村 匡平
運動学Ⅱ	理学療法学科　1年昼後期	仲村 匡平
運動学演習Ⅰ	理学療法学科　1年昼前期	齋藤 雄一
運動学演習Ⅱ	理学療法学科　1年昼後期	齋藤 雄一
人間発達学	理学療法学科　1年昼後期	鳥羽 翔太
リハビリテーション基礎医学Ⅰ	理学療法学科　1年昼前期	吉田 修一
リハビリテーション基礎医学Ⅱ	理学療法学科　1年昼後期	吉田 修一
医学概論	理学療法学科　1年昼前期	新垣 工

2023年度シラバス　科目・講師名一覧

理学療法学科昼間コース　専門基礎分野

科目名	開講年次	講師名
病理学概論	理学療法学科　2年昼後期	福井 謙二
整形外科学	理学療法学科　2年昼前期	宮野 慎太郎
内科学	理学療法学科　2年昼前期	吉田 修一
神経内科学	理学療法学科　2年昼前期	藤枝 寿光
臨床心理学	理学療法学科　1年昼後期	
精神医学	理学療法学科　1年昼後期	
リハビリテーションと理学療法Ⅰ	理学療法学科　1年昼前期	新垣 工
リハビリテーションと理学療法Ⅱ	理学療法学科　1年昼前期	井上 祥教

2023年度シラバス　科目・講師名一覧

理学療法学科昼間コース　専門分野

科目名	開講年次	講師名
基礎理学療法学Ⅰ	理学療法学科　1年昼前期	川人 裕也
基礎理学療法学Ⅱ	理学療法学科　1年昼後期	森 政人
生活機能演習	理学療法学科　2年昼後期	古井 雅也
臨床運動学演習Ⅰ	理学療法学科　1年昼後期	川人 裕也
臨床運動学演習Ⅱ	理学療法学科　2年昼後期	加藤 智彦
理学療法管理学	理学療法学科　3年昼前期	新垣 工
基礎評価学演習Ⅰ	理学療法学科　1年昼前期	森 政人
基礎評価学演習Ⅱ	理学療法学科　1年昼後期	松本 芳和
基礎評価学演習Ⅲ	理学療法学科　2年昼前期	松本 芳和
臨床評価学演習Ⅰ	理学療法学科　1年昼前期	安山 一郎・宮野 慎太郎 百代 貴子・古井 雅也
臨床評価学演習Ⅱ	理学療法学科　1年昼後期	安山 一郎・新垣 工・森 政人
運動療法学演習	理学療法学科　1年昼後期	井上 祥教
物理療法学	理学療法学科　1年昼後期	鈴木 智裕
日常生活活動学演習Ⅰ	理学療法学科　2年昼前期	東 健太郎
日常生活活動学演習Ⅱ	理学療法学科　2年昼後期	東 健太郎
義肢学	理学療法学科　2年昼前期	吉廣 伸隆
装具学	理学療法学科　2年昼後期	吉廣 伸隆
中枢神経疾患の理学療法学Ⅰ	理学療法学科　2年昼前期	中﨑 満
中枢神経疾患の理学療法学Ⅱ	理学療法学科　2年昼後期	中﨑 満

2023年度シラバス　科目・講師名一覧

理学療法学科昼間コース　専門分野

科目名	開講年次	講師名
運動器疾患の理学療法学Ⅰ	理学療法学科　2年昼前期	本宮 丈嗣
運動器疾患の理学療法学Ⅱ	理学療法学科　2年昼後期	本宮 丈嗣
内部障害系疾患の理学療法学Ⅰ	理学療法学科　2年昼前期	岡住 信介
内部障害系疾患の理学療法学Ⅱ	理学療法学科　2年昼後期	岡住 信介
小児疾患の理学療法学	理学療法学科　2年昼前期	百代 貴子
理学療法学技術演習Ⅰ	理学療法学科　2年昼前期	鈴木 智裕・古井 雅也 東 健太郎
理学療法学技術演習Ⅱ	理学療法学科　2年昼後期	仲村 匡平・古井 雅也 百代 貴子・宮野 慎太郎
理学療法学総合学習Ⅰ	理学療法学科　3年昼後期	東 健太郎・新垣 工
理学療法学総合学習Ⅱ	理学療法学科　3年昼後期	東 健太郎・新垣 工
理学療法学総合学習Ⅲ	理学療法学科　3年昼後期	東 健太郎・新垣 工
生活環境学	理学療法学科　2年昼後期	鈴木 智裕
地域理学療法学演習	理学療法学科　2年昼後期	齋藤 雄一
臨床実習Ⅰ	理学療法学科　1年昼後期	理学療法学科教員 ・ 臨床教育指導者
臨床実習Ⅱ	理学療法学科　2年昼後期	理学療法学科教員 ・ 臨床教育指導者
臨床実習Ⅲ	理学療法学科　3年昼前期	理学療法学科教員 ・ 臨床教育指導者
臨床実習Ⅳ	理学療法学科　3年昼前期	理学療法学科教員 ・ 臨床教育指導者

Ⅰ．基礎分野

講義科目	心理学			
担当講師	小野田 聡子		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年前期	単位数	2
教育目標	①対人援助職に必要な人間の行動科学の基本原則を学び、対象者理解の基礎を身につける。 ②リハビリテーション治療過程に関わる学習理論、動機づけを理解する。			

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	医療行動科学の基本概念① 医療の行動科学とは何か	①心理学とは何かを理解する。 ②医療と心理学の関係を理解する。 ③心理学の歴史と現代の医療行動科学の位置づけを理解する。
2	医療行動科学の基本概念② 心のモデル	①フロイトの心的力動理論の概要を理解する。 ②人間の適応の概要を理解する。 ③人間情報処理モデルとしての認知科学・神経科学の概要を理解する。
3	行動科学の基本法則① 学習の理論	①古典的条件づけの役割、誘因と動因を理解する。 ②道具的条件づけを理解する。 ③認知学習について理解する。
4	行動科学の基本法則② 記憶の構造とはたらき	①記憶の区分と働きを理解する。 ②記憶の分類を理解する。 ③パペッツ回路と記憶障害を理解する。
5	行動科学の基本法則③ 知覚の様式	①知覚と感覚を理解する。 ②視覚の概要を理解する。 ③聴覚の概要を理解する。
6	行動科学の基本法則④ 感情	①情動とは何かを理解する。 ②感情の機能を理解する。 ③記憶と感情の関係を理解する。
7	行動科学の基本法則⑤ 動機と覚醒水準	①動機づけの役割、誘因と動因を理解する。 ②動機づけの種類を理解する。 ③欲求と葛藤、不満行動を理解する。
8	行動科学の基本法則⑥ 社会心理学	①社会的認知を理解する。 ②自己と他者を理解する。 ③社会化と社会的影響を理解する。
9	行動科学の基本法則⑦ ストレスのメカニズム	①ストレスとは何かを理解する。 ②ストレスによる生理学的変化を理解する。 ③ストレスコーピングと自立訓練法を知る。
10	行動科学的介入の基礎知識① パーソナリティ	①パーソナリティの形成を理解する。 ②パーソナリティと病気の関係（パーソナリティ理論）を知る。 ③パーソナリティ測定（バウムテスト）を知る。
11	行動科学的介入の基礎知識② 知性と感性	①知能の定義を理解する。 ②知能検査方法を知る。 ③知能の発達と障害を知る。
12	行動科学的介入の基礎知識③ 心の発達と危機	①発達の概要を理解する。 ②エリクソンのライフサイクル論を理解する。
13	行動科学的介入の基礎知識④ 心の発達と危機	①ピアジェの発達段階を理解する。 ②中年期以降の心理的変化を理解する。
14	行動科学的介入の基礎知識⑤ 心理学的介入	①精神分析法（内容と人名） ②行動療法（行動療法の理論） ③カウンセリング（来談者中心療法）
15	まとめ	理解度に合わせて補足を行う。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー	山田冨美雄	北大路書房	1998年
参考 図書等				

授業 方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の 注意	心理学は国家試験に出題される重要な科目であり、理学療法士、作業療法士にとって対象者理解にとって必要不可欠な科目であり、記憶学習ではなく人の行動の成り立ちを興味を持ち学習して下さい。		

講義科目	統計学			
担当講師	松葉 潤治		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年後期	単位数	2
教育目標	基礎的な統計処理を学習し、理学療法及び作業療法に必要な臨床研究の基礎を身につける。			

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	オリエンテーション	①臨床研究のデザインと研究の信頼性を理解する。 ②統計の4つの尺度とその意味を理解する。
2	偏差値	①偏差値とは何か ②標準偏差と編阿智の関係 ③正規分布
3	有意水準と仮説検定	①有意水準と仮説検定 ②片側検定と両側検定
4	割合の検定	①二項分布の正規近似 ②ｐ値
5	ｔ検定	①母集団と標本、平均と分散 ②標準偏差と標準誤差 ③ｔ値とｔ分布
6	演習①	レポート作成
7	研究について	①研究の種類、方法について ②ガイドラインについて
8	演習解説・復習	①演習問題の解説 ②解説後にグループにて復習
9	感度と特異度	①感度と特異度 ②クロス集計
10	演習②	レポート作成
11	相関と回帰	①相関、回帰とは何か
12	演習解説・復習	①演習問題の解説 ②解説後にグループにて復習
13	演習③	レポート作成
14	論文検索の仕方と読み方	①論文検索の方法 ②論文の読み方
15	まとめ	①学習の振り返り ②国家試験に向けて

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	すぐできる！リハビリテーション統計	山本澄子、谷浩明	南江堂	2019年
参考図書等				

授業方法	統計学の基本的な内容の講義および統計処理の演習を行う。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う
履修上の注意	統計学は根拠に基づいた証明を実践するため必要不可欠で、科学的根拠に基づくリハビリテーションの基礎となる学問であり興味をもって臨むこと。		

講義科目	情報処理			
担当講師	高坂 信太郎		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年後期	単位数	2
教育目標	コンピューターの基本的操作を学び、文章作成及び表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを用いた実習を通じ、研究・レポート作成に必要なデータ処理、統計分析の手法を学習しリハビリテーション研究の基礎を身につける。			

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	オリエンテーション （情報システムとは）	①情報システムの仕組みを理解する。 ②クラウドのシステムと使い方を理解する。　または、クラウドコンピューティングのシステムと使い方を理解する。
2	情報セキュリティー （情報モラル、著作権、ネットワークを利用する上での注意点）	①情報セキュリティについて理解する。 ②SNSリテラシーを理解する。
3	Windowsの基本操作	①OSについて理解できる。 ②ファイル管理操作ができる。
4	Word（日本語入力システム、文字の入力、特殊な入力方法）	①正確な文字入力ができる。
5	Word（文章の入力、保存、印刷設定）	①Wordを用いて文章を入力し、印刷の詳細な設定ができる。
6	Word（編集、表作成、イラスト挿入）	①Wordを用いてビジネス文書を作成できる。
7	Excel（データ入力、ワークシート編集）	①表計算ソフトの基本的な操作ができる。
8	Excel（計算式、グラフ）	①表計算ソフトを用いて計算式を自分で組み立て、それを元にグラフを作成することができる。
9	Excel（グラフ、関数）	①表計算ソフトを用いて関数を使用し、データ分析ができる。 ②グラフの詳細設定ができる。
10	Excel（関数）	①表計算ソフトを用いて複雑な関数を使用し、データの加工ができる。
11	Excel（データベース機能）	①表計算ソフトを用いて大量のデータを効率的に管理できる。
12	PowerPoint（プレゼンテーションとは、プレゼンテーションソフトの基本操作）	①プレゼンテーションについて説明できる。 ②プレゼンテーションソフトの基本操作ができる。
13	PowerPoint（ビジュアルツールを利用した効果的なプレゼンテーションの作成）	①視覚的に効果的なツールを使用し、スライドを作成することができる。
14	PowerPoint（発表技術、配布資料）	①プレゼンテーションを行う際のポイント、配布資料について説明できる。
15	まとめ	①習熟度にあわせて補足を行う。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	情報利活用　基本演習　office2019対応	土岐順子、山崎紅	日経BPソフトプレス	2019年
参考 図書等	医療従事者のための情報リテラシー	森由紀、中村健壽	日経BP社	2018年

授業 方法	授業はテキストを使用し演習形式で行います。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う
履修上の 注意	欠席するとついてこれなくなる事もありますので欠席しないようにして下さい。また、使わないと覚えられませんので積極的にコンピューターを使用して習得しましょう。		

講義科目	物理学			
担当講師	西尾 静恵		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年前期	単位数	2
教育目標	①人体の運動と物理法則の関係を理解し、科学的な見方を身につける。 ②リハビリテーション臨床場面における科学的思考の基礎を身につける。			

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	物理学で学習すること	①基本単位と組立単位 ②理学療法・作業療法と物理学
2	物理量とその表し方 (1)	①物理量 ②ベクトル量とスカラー量
3	物理量とその表し方 (2)	①大きい数，小さい数の表し方 ②指数の計算 ③有効数字とその計算
4	物理学で使うグラフと関数 (1)	①数式とグラフ ②三角関数 (1)
5	物理学で使うグラフと関数 (2)	①三角関数 (2) ②ベクトルの計算
6	いろいろな運動 (1)	①位置と変位 ②速度、加速度 ③等速直線運動
7	いろいろな運動 (2)	①等加速度直線運動 ②自由落下、鉛直投げ上げ ③水平投射
8	さまざまな力 (1)	①力とは、力の単位 ②重力 ③張力
9	さまざまな力 (2)	①垂直抗力 ②摩擦力 ③弾性力、圧力
10	力のつり合いと運動の法則 (1)	①力の合成と力のつり合い ②慣性の法則（ニュートンの第1法則） ③遠心力
11	力のつり合いと運動の法則 (2)	①運動方程式（ニュートンの第2法則） ②作用反作用の法則（ニュートンの第3法則）
12	物体の重心と回転運動 (1)	①剛体の回転運動 ②力のモーメントのつり合い ③重心と重心の求め方
13	物体の重心と回転運動 (2)	①剛体の運動と剛体にはたらく力 ②力のモーメントと3つのてこ
14	運動量，仕事とエネルギー (1)	①運動量と力積 ②仕事と仕事率 ③運動エネルギー
15	運動量，仕事とエネルギー (2)	①位置エネルギー ②力学的エネルギー保存の法則

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	PT・OTゼロからの物理学	望月久、棚橋信雄	羊土社	2015年
参考図書等				

授業方法	テキストを中心に講義を行う。練習問題などの演習を適宜取り入れる。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	運動学履修における必要な知識であるとともに、国家試験に出題される部分を中心に講義を行うため、ただ憶えるのではなく理解をすること。		

講義科目	基礎教養			
担当講師	加藤 智彦		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年前期	単位数	2
教育目標	・文章を書く上で基本となる語彙と文法を理解する。 ・文章の基本となる文章構成について理解し、説得力のある論理的な文章表現力を身につける。 ・文章表現だけではなく、日常会話でも必要となる敬語表現を身につける。			

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	・国語力の把握と目標の確認	①講義目標及び予定についての説明を行う。 ②国語力を確認する導入問題を解き、表現上必要な文法事項を確認する。 ③200字程度の課題分を書かせ、学生の表現力を確認する。
2	・語句の意味と用法について ・意見文の構成について ・二段構成の意見文の作成（1回目）	①語句の意味・正しい使い方を理解する。 ②意見文の構成と意見を支える事実の表現の仕方について説明する。 ③250字程度の二段構成意見文を作成する。
3	・語句の意味と用法について ・意見文の事実について確認する	①語句の意味・使い方、接続関係について理解する。 ②前回作成の二段構成意見文の問題点を確認する。
4	・文法的な正しさについて ・二段構成の意見文の作成（2回目）	①文法的に正しい語句の使い方を理解する。 ②250字程度の二段構成意見文の2回目を作成する。
5	・通信文の書き方(1回目)	①通信文（縦書き）の基本の型を理解する。 ②通信文の約束事を確認する。（構成、頭語と結語、時候の挨拶等） ③前回作成の二段構成意見文の問題点を確認する。
6	・文法的な正しさについて ・三段構成の意見文について（1回目）	①文法的に正しい表現、わかりやすい表現について理解する。 ②三段構成意見文の構成について説明する。 ③300字程度の三段構成意見文を作成する。
7	・分かりやすい表現について ・三段構成意見文の理由について	①分かりやすい表現、適切な表記について理解する。 ②前回後世の三段構成意見文の問題点を確認する。 ③三段構成意見文の理由の述べ方について説明する。
8	・敬語表現について ・三段構成意見文の作成（2回目）	①敬語の基本について理解する。 ②300字程度の三段構成意見文を作成する。
9	・通信文の書き方(2回目）	①通信文（記書き）の基本型について理解する。 ②前回作成の三段構成意見文の問題点を確認する。
10	・敬語表現について ・文章表現(文法事項)について ・三段構成の文章作成（3回目）	①問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ②問題演習を通して、表現上必要な文法事項について理解する。 ③300字程度の三段構成意見文を作成する。
11	・敬語表現について ・文章表現(文法事項)について ・文章の書き方（四段構成）	①問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ②問題演習を通して、表現上必要な文法事項について理解する。 ③四段構成論説文の書き方理解と前回作成文章の問題点を確認する。
12	・敬語表現について ・文章表現(文法事項)について ・四段構成の文章作成（1回目）	①問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ②問題演習を通して、表現上必要な文法事項について理解する。 ③400字程度の四段構成論説文を作成する。
13	・通信文の書き方(3回目)	①縦書き通信文と比較しながら、横書き通信文の基本型を理解する。 ②前回作成の四段構成論説文の問題点を確認する。
14	・敬語表現について ・文章表現(文法事項)について ・四段構成の文章作成（2回目）	①問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ②問題演習を通して、表現上必要な文法事項について理解する。 ③400字程度の四段構成論説文を作成する。
15	・敬語表現について ・文章表現(文法事項)について ・文章作成について	①問題演習を通して、敬語表現の理解を深める。 ②問題演習を通して、表現上必要な文法事項について理解する。 ③前回作成の四段構成論説文の問題点を確認する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	文章検　公式テキスト　３級	公益財団法人日本漢字能力検定協会	公益財団法人日本漢字能力検定協会	2015年
	基礎から学べる！ 文章力ステップ 文章検３級対応	公益財団法人日本漢字能力検定協会	公益財団法人日本漢字能力検定協会	2015年
	講義用に作成した補助テキスト			
参考 図書等				

授業 方法	講義形式・演習形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験、小テスト、作成文書により評価する。
履修上の 注意	文章が上手くなるには繰り返し書くことですが、ただ繰り返し書けばよいのではありません。そこで、講義では必要な知識の学習と並行して段階的に文章を書いていきますので、しっかり取り組んで文章を書けるようになりましょう。		

講義科目	対人関係演習Ⅰ					
担当講師	石渡 みどり・宮野 慎太郎・古井 雅也・百代 貴子				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①医療専門職に対する社会的要請を学び、医療人としての守るべき倫理を理解する。 ②自己と他者、様々な人間関係の在り方を学ぶ。 ③人間関係における他者理解のためのコミュニケーション技法を経験し、自己課題を認識する。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	倫理とは何か	①倫理は人間関係の在り方についての社会的要請であることを理解する。 ②倫理と道徳及び法の関係を理解する。 ③社会的要請に応じる倫理的に適切な行動選択の構造を理解する。
2	医療専門職の倫理原則	①医療専門職の基礎となる「誠実」「忠誠」を理解する。 ②医療・医療研究における倫理の4原則を理解する。
3	自己過程①	①他者を理解する(社会的認知)。自己と他者。
4	自己過程②	①集団の中の個人 ②集団における人間関係(職場を中心に)
5	対人認知	①人の印象を捉えるメカニズム ②人間関係を認知するメカニズム
6	コミュニケーション技法①	①みること、きくことの技法を学ぶ。 ②傾聴と共感的理解の技法を学ぶ。 ③人間関係における共感・思いやりの重要性を理解する。
7	コミュニケーション技法②	①自己を表現する。 ②意図を明確に伝える。
8	人間関係①	①障がい者の家族関係（グループディスカッション） ②事例を提示してグループディスカッションを実施する。
9	人間関係②	①セラピストと対象者の関係（グループディスカッション） ②事例を提示してグループディスカッションを実施する。
10	対人ストレスとソーシャルサポート	①ストレスとは何かを理解する。 ②人間関係の支え合いを理解する。
11	コミュニケーション実習諸注意	①実習施設の社会的役割を知り、施設におけるルール、マナーを理解する。 ②実習施設における対象者の特徴を理解する。 ③実習における傾聴及び共感課題を理解する。
12	施設実習Ⅰ-①	高齢者デイサービス施設におけるコミュニケーション実習を行い、対象者の話を傾聴しかつ対象者を共感的に理解する経験を行う。
13	施設実習Ⅰ-②	高齢者デイサービス施設におけるコミュニケーション実習を行い、対象者の話を傾聴しかつ対象者を共感的に理解する経験を行う。
14	施設実習Ⅰ-③	高齢者デイサービス施設におけるコミュニケーション実習を行い、対象者の話を傾聴しかつ対象者を共感的に理解する経験を行う。
15	振返りセミナー	①グループディスカッションを行い施設実習の体験を共有する。 ②体験を通じ傾聴及び共感的理解に必要な技術は何か話し合う。 ③対人関係における自己課題を確認する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	ケア・コミュニケーション　　第4版	松田美幸	ウイネット	2017年
参考図書等	患者さんがみるみる元気になる リハビリ現場の会話術	矢口拓宇	秀和システム	2017年

授業方法	グループディスカッションを中心に適宜講義を交える 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	レポート（5割） 施設実習の評価（5割）
履修上の注意	対人職としての基礎を学びます。講義で学んだ内容を基に施設演習で実践していきます。普段の生活から対人援助には何が必要であるかを考えながら、行動をしていきましょう。		

講義科目	対人関係演習Ⅱ					
担当講師	宮野 慎太郎・古井 雅也・百代 貴子				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。フィールドワークを通じてコミュニケーションスキルの実践を行い、自己課題を認識する。 対象者を尊重し,共感的態度をもって,より良い・善い人間関係を構築できる。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	オリエンテーション	①科目概要及び目的を理解する。 ②対人援助職に必要なコミュニケーションの基礎を復習する。
2	ボランティア活動について	ボランティア活動の意義について理解することが出来る
3	情報収集	フィールドワーク内容について情報取集を行い、課題を選択できる
4	フィールドワーク企画①	自らが選択した課題について計画立案が出来る
5	フィールドワーク企画②	自らが選択した課題について計画を発表することが出来る
6	フィールドワークの実践①	現地研修
7	フィールドワークの実践②	現地研修
8	フィールドワークの実践③	現地研修
9	フィールドワークの実践④	現地研修
10	発表と相互評価	課題内を振り返ることが出来る 各自の取り組み内容について発表を行う
11	発表と相互評価	課題内を振り返ることが出来る 各自の取り組み内容について発表を行う
12	課題の振り返り	事後報告としてレポート作成をすることが出来る
13	人間関係について	人間関係について自らの考えをまとめることが出来る
14	患者との人間関係について	患者との人間関係についてグループで話し合うことが出来る
15	地域における人間関係	地域における人間関係についてグループ発表をすることが出来る

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書				
参考 図書等				

授業 方法	グループワーク、フィールドワーク 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	提出物、課題への取り組み状況を総合的に評価する。
履修上の注意	対人関係演習Ⅰで学んだことをふまえ、適切なコミュニケーションや態度で対象者に関わることができるよう常に自己洞察を行っていくこと。また、普段の学内生活から身だしなみや態度に気をつけて行動をしていくこと。		

Ⅱ. 基礎分野

講義科目	解剖学Ⅰ			
担当講師	松永　智		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年前期	単位数	2
教育目標	正常な人体の動物機能に関わる骨・筋および末梢神経系の形態と構造を理解する。			

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	解剖学総論、骨学総論	①人体の概要と解剖学的用語を理解する。 ②骨の機能と発生を理解する。 ③人体の骨の概要を理解する。
2	組織学総論、筋学総論、関節・ 靭帯総論	①人体を構成する細胞・組織・器官の概要を理解する。 ②筋組織の種類と特徴および骨格筋の構造を理解する。 ③骨の連結と関節の構造と機能を理解する。
3	骨学（関節靭帯を含む） 脊柱	①脊柱の外観及び椎骨の基本的形態及び特徴を理解する。 ②脊柱、脊柱と頭蓋の連結を理解する。
4	骨学（関節靭帯を含む） 胸郭	①胸郭の外観及び胸郭を構成する骨、連結を理解する。
5	骨学（関節靭帯を含む） 頭蓋①	①頭蓋の構成及び頭蓋を構成する個々の骨を理解する。
6	骨学（関節靭帯を含む） 頭蓋②	①頭蓋腔と外部の交通を理解する。 ②頭蓋の連結：縫合と顎関節を理解する。
7	骨学（関節靭帯を含む） 上肢	①上肢帯および自由上肢骨に含まれる骨を理解する。 ②上肢帯および自由上肢骨、手の連結を理解する。
8	筋学：頭頸部の筋	①頭部の筋（表情筋・咀嚼筋群・頸部の筋）の起始停止作用を理解する。
9	筋学：顔面・体幹の筋	①胸部・腹部・背部の筋の起始停止作用を理解する。
10	筋学：上肢の筋①	①上肢帯の筋の起始停止走行作用を理解する。 ②上腕の筋の起始停止走行作用を理解する。
11	筋学：下肢の筋②	①下肢帯の筋の起始停止走行作用、殿部深層の血管・神経を理解する。 ②大腿の筋の起始・停止・走行・作用を理解する。 ③大腿（断面）の大腿筋間中隔および血管・神経の位置を理解する。
12	骨学（関節靭帯を含む） 下肢	①下肢帯および骨盤、自由下肢骨を理解する。 ②下肢帯および骨盤、自由下肢骨の連結を理解する。
13	筋学：下肢の筋①	①下肢帯の筋の起始停止走行作用、殿部深層の血管・神経を理解する。 ②大腿の筋の起始・停止・走行・作用を理解する。 ③大腿（断面）の大腿筋間中隔および血管・神経の位置を理解する。
14	筋学：下肢の筋②	①下腿の筋の起始停止走行作用を理解する。 ②足の筋の起始停止走行作用を理解する。
15	まとめ	理解度に合わせて補足を行う。

	書籍名	著者	出版社
教科書	標準理学療法学・作業療法学　解剖学	野村　嶬　編	医学書院
参考 図書等	人体解剖アトラス 消っして忘れない解剖学要点整理ノート	佐藤　達夫　訳 井上　馨　編	南江堂 羊土社

授業 方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価 方法	定期試験
履修上の 注意	人間の運動機能を理解する基盤となる重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。		

講義科目	解剖学Ⅱ			
担当講師	北村　泰子		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年後期	単位数	2
教育目標	①正常な人体の動物的機能特に神経系の形態・構造を理解する。 ②正常な人体における植物系機能（循環・呼吸・代謝・成長など）ならびに意識的感覚や精神機能に関わる形態・構造を理解する。			

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	内臓、循環器系①	①内臓器官の全体構造を理解する。 ②心臓の構造を理解する。
2	循環器系②	①循環器系の概略を理解する。 ②血液の循環を理解する。
3	呼吸器系、消化器系①	①呼吸器系を構成する器官を理解する。 ②呼吸器系の構造の詳細を理解する。 ③消化器系を構成する器官を理解する。
4	消化器系②	①消化器系の構造の詳細を理解する。
5	泌尿器系、生殖器系、発生	①泌尿器系を構成する器官を理解する。 ②生殖器系の構造の詳細を理解する。 ③人体の発生を理解する。
6	内分泌系、感覚器系	①内分泌系の構造を理解する ②感覚器系の構造を理解する
7	神経系：総論	①神経系の基本的な構成について説明できる。 ②神経系の発生を理解する。
8	神経系：中枢神経系；脊髄	①脊髄の外形を理解する。 ②脊髄の断面（灰白質と白質の違い）を理解する。 ③脊髄の神経路を理解する。
9	神経系：中枢神経系；脳幹	①脳幹の外形を理解する。 ②脳幹の断面（神経路と脳神経核）を理解する。
10	神経系：中枢神経系；小脳	①小脳の外形と区分を理解する。 ②小脳脚の位置と役割を理解する。 ③小脳の内部構造について理解する。
11	神経系：中枢神経系；大脳	①大脳皮質の構造と機能局在を理解する。
12	神経系：中枢神経系；大脳	①大脳基底核の構造と役割を理解する。 ②間脳の構造と役割を理解する。
13	神経系：中枢神経系；伝導路	①上行性伝導路（体性感覚、視覚、聴覚）を理解する。 ②下行性伝導路（錐体路、錐体外路）を理解する。
14	神経系：末梢神経系；脊髄神経	①脊髄と脊髄神経の関係を理解する。 ②神経叢と神経の名称及び走行を理解する。
15	神経系：末梢神経系；脳神経	①脳神経の機能と経路を理解する。 ②自律神経の機能と経路を理解する。 ③神経系のまとめ

	書籍名	著者	出版社
教科書	標準理学療法学・作業療法学　解剖学	野村　嶬　編	医学書院
参考図書等	Qシリーズ　新解剖学	加藤　征　監修	日本医事新法社
	図解解剖学辞典	山田　英知　監修	医学書院
	人体解剖カラーアトラス	佐藤　達夫　訳	南江堂
	消っして忘れない解剖学要点整理ノート	井上　馨　編	羊土社

授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	人間の運動機能を理解する基盤となる重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。		

講義科目	生理学Ⅰ			
担当講師	田﨑 裕紀		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年前期	単位数	2
教育目標	生理学の基礎である細胞生理について理解したうえで、ヒトの生理学的（植物）機能を理解する。			

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	生理学の基礎Ⅰ　細胞膜	①細胞の構造：核と細胞小器官の役割 ②細胞膜の構造と機能
2	生理学の基礎Ⅱ　物質輸送	①チャンネルトランスポーター ②能動輸送 ③サイトーシス
3	生理学の基礎Ⅲ　エネルギー生成	①ATPと解糖系 ②酸化的リン酸化 ③ミトコンドリア
4	消化と吸収Ⅰ	①咀嚼と嚥下 ②蠕動運動 ③胃液・膵液・肝臓・膵臓、胆のうの働き
5	消化と吸収Ⅱ	①吸収性上皮細胞 ②膜消化 ③排便反射
6	消化と吸収Ⅲ	①糖質・蛋白質・脂質の消化と吸収 ②消化管ホルモン
7	まとめ	理解度に合わせて補足説明を行う。
8	呼吸と血液Ⅰ	①内呼吸と外呼吸 ②呼吸運動 ③スパイログラム
9	呼吸と血液Ⅱ	①血液ガスの交換と運搬 ②酸素解離曲線 ③呼吸中枢
10	呼吸と血液Ⅲ	①血液の成分と血球の機能 ②血液凝固 ③血液型
11	血液の循環Ⅰ	①固有心筋 ②特殊心筋 ③刺激伝導系
12	血液の循環Ⅱ	①心電図 ②心周期 ③前負荷と後負荷
13	血液の循環Ⅲ	①収縮期血圧と拡張期血圧 ②減圧(昇圧）反射 ③レニンアンギオテンシン系
14	血液の循環Ⅳ	①微小循環 ②胎児循環 ③浮腫とリンパ系
15	まとめ	理解度に合わせて補足説明を行う。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	系統看護学講座　解剖生理学	坂井建雄、岡田隆夫	医学書院	2022年
参考図書等	図解ワンポイントシリーズ　生理学　人体の構造と機能	片野由美	医学芸術社	2015年
	カラー図解　よくわかる生理学の基礎	佐久間康夫	メディカル・サイエンス	2017年
	消っして忘れない生理学要点整理ノート	佐々木誠一	羊土社	2012年

授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	疾病の成り立ちを理解するために重要な基礎知識であり国家試験出題数も多い科目である。毎回の授業内容をしっかり理解するため、積極的に質問をしたり学生相互で教え合うなど主体的学習に努めること。		

講義科目	生理学Ⅱ			
担当講師	田﨑 裕紀		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年後期	単位数	2
教育目標	ヒトの動物性機能を理解する。			

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	体液の調節と尿Ⅰ	①ネフロン ②濾過と再吸収 ③バソプレッシンとアルドステロン　④クリアランス
2	体液の調節と尿Ⅱ	①水の出納・脱水 ②電解質異常：酸-塩基バランス ③排尿
3	神経系の基礎	①ニューロン ②静止電位と活動電位 ③伝導と伝達　　④EPSP・IPSP
4	内臓機能の調節Ⅰ	①自律神経 ②交感神経 ③副交感神経
5	内臓機能の調節Ⅱ	①内分泌 ②傍分泌 ③受容体　④セカンドメッセンジャー
6	内臓機能の調節Ⅲ	①下垂体・甲状腺 ②膵臓・副腎 ③神経内分泌
7	まとめ	理解度に合わせて補足説明を行う。
8	体の支持と運動	①サルコメア ②ミオシンとアクチン ③興奮収縮連関　　④クレアチリン酸
9	情報の受容と処理Ⅰ	①中枢神経 ②脳 ③脊髄
10	情報の受容と処理Ⅱ	①脳神経 ②脊髄神経 ③伝導路
11	情報の受容と処理Ⅲ	①脳波と睡眠 ②記憶 ③情動
12	情報の受容と処理Ⅳ	①視覚 ②杆体と錐体 ③眼球運動
13	情報の受容と処理Ⅴ	①聴覚・平衡覚 ②味覚 ③嗅覚
14	外部環境からの防御	①非特異的防衛機構 ②免疫 ③体温
15	まとめ	理解度に合わせて補足説明を行う。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	系統看護学講座　解剖生理学	坂井建雄、岡田隆夫	医学書院	2022年
参考図書等	図解ワンポイントシリーズ　生理学　人体の構造と機能	片野由美	医学芸術社	2015年
	カラー図解　よくわかる生理学の基礎	佐久間康夫	メディカル・サイエンス	2017年
	消っして忘れない生理学要点整理ノート	佐々木誠一	羊土社	2012年

授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	疾病の成り立ちを理解するために重要な基礎知識であり国家試験出題数も多い科目である。毎回の授業内容をしっかり理解するため、積極的に質問をしたり学生相互で教え合うなど主体的学習に努めること。		

講義科目	運動学Ⅰ					
担当講師	仲村 匡平				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	4
教育目標	身体の構造（骨・関節・靭帯・筋・神経）と身体の姿勢保持・運動との関係を理解する。 上肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。 脊柱・胸郭の構造と運動との関わり合いを理解する。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）	№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	運動学総論 身体運動の面と軸	総論 身体運動の面と軸を理解する	16	筋・筋と神経まとめ	学習の習熟度に合わせ補足
2	身体運動の面と軸 まとめ	運動方向を理解する 学習の習熟度に合わせ補足	17	上肢帯と肩関節の構造と運動①	肩に関する各関節の構造と関節運動を理解する 靭帯の走行と運動制限を理解する
3	骨の分類と構成	骨の基本構造･骨の成長について理解する。 骨の分類について理解する。	18	上肢帯と肩関節の構造と運動②	肩に関する各関節の構造と関節運動を理解する
4	骨の連結と分類	骨の連結種類を理解できる	19	上肢帯と肩関節の構造と運動③	肩関節安定化機構(関節唇・回旋腱板)を理解する
5	滑膜関節の形状と分類	滑膜関節の基本構造（形状と分類・軸・代表的な関節の観察）を理解する	20	上肢帯と肩関節の構造と運動④	肩甲上腕リズム　上腕二頭筋長頭と肩関節を理解する
6	骨・関節まとめ	学習の習熟度に合わせ補足	21	肘関節と前腕の構造と運動①	肘関節を構成する骨と関節(腕尺関節・腕橈関節・上橈尺関節・下橈尺関節)を理解する
7	筋の構造と分類①	筋の分類を理解する 骨格筋の基本構造を理解する	22	肘関節と前腕の構造と運動②	生理的外反肘・ヒューター線（三角）を理解する 前腕骨間膜について理解する
8	筋の構造と分類②	骨格筋の種類別特性を理解する 筋収縮のメカニズムを理解する	23	肘関節と前腕の構造と運動③	上腕二頭筋、腕橈骨筋、上腕三頭筋３つのてこの関係性について理解する
9	筋収縮について①	筋収縮のメカニズムを理解する 筋収縮の分類を理解する	24	手関節と手の構造と運動①	手関節を構成する骨と手の骨を理解する 手関節の構造と関節運動を理解する 手のアーチを理解する
10	筋収縮について②	筋張力を理解する	25	手関節と手の構造と運動②	手根中手関節から指骨間関節を構成する骨と手の骨及び関節運動の理解 屈筋腱と伸筋腱を理解する
11	神経系の構造と機能①	神経の基本構造を理解する 脊髄の基本構造を理解する	26	手関節と手の構造と運動③	手内在筋と外在筋を理解する 手の機能的肢位の構造を理解する 手の変形の種類を知る
12	神経系の構造と機能②	神経線維の分類を理解する 錐体路を理解する	27	各関節と運動まとめ	学習の習熟度に合わせ補足
13	筋と神経①	筋紡錘・伸張反射を理解する	28	脊柱・体幹の構造と運動①	脊柱の基本構造と運動について理解する 椎間円板の構造と機能について理解する 脊椎に関わる靭帯の機能を理解する
14	筋と神経②	α―γ連関を理解する 腱紡錘・Ib抑制を理解する	29	脊柱・体幹の構造と運動②	頸椎の構造と運動について理解する 胸椎･胸郭・腰椎の構造と運動について理解する
15	筋と神経③	運動単位を理解する 筋の機能・形態的変化を理解する	30	振り返り	学習の習熟度に合わせ補足

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	基礎運動学　第6版補訂 標準理学療法学・作業療法学　解剖学	中村隆一 野村 嶬	医歯薬 医学書院	2020年 2015年
参考図書等	プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論/運動器系	坂井建雄、松村譲兒	医学書院	2017年

授業方法	講義 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	人間の運動機能を理解する重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。		

講義科目	運動学Ⅱ					
担当講師	仲村 匡平				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	下肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。 脊柱・胸郭の構造と運動との関わり合いを理解する。 姿勢保持機構と正常歩行について理解する。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	脊柱・体幹の構造と運動③	呼吸運動と呼吸筋について理解する 腰椎の構造と運動について理解する
2	脊柱・体幹の構造と運動④	脊柱の動筋について理解する 表情筋･咀嚼筋について理解する
3	下肢帯と股関節の構造と運動①	仙腸関節を構成する骨と関節を理解する 股関節を構成する骨と関節を理解する
4	下肢帯と股関節の構造と運動②	靭帯の走行と運動制限を理解する
5	下肢帯と股関節の構造と運動③	股関節の動筋について理解する
6	膝関節の構造と運動①	膝関節を構成する骨と関節を理解する 半月板の構造と機能について理解する
7	膝関節の構造と運動②	靭帯の走行と運動制限を理解する 関節運動(転がり・滑り),終末強制回旋運動について理解する 膝関節の動筋について理解する
8	足関節の構造と運動③	足関節を構成する骨と足の骨を理解する 足関節の構造と関節運動を理解する
9	足関節の構造と運動④	靭帯の走行と運動制限を理解する 足関節の動筋について理解する
10	姿勢	重心と支持基底面,安定性に影響する要因について理解する 安静立位姿勢における重心線について理解する 抗重力筋とその働きについて理解する
11	活動に関わる身体機能と構造①	歩行周期と基本的用語について理解する 正常歩行における重心移動について理解する
12	活動に関わる身体機能と構造②	正常歩行における床反力について理解する
13	活動に関わる身体機能と構造③	正常歩行における下肢関節の角度変化と筋活動について理解する
14	活動に関わる身体機能と構造④	効率の良い歩行を生み出すための要素について理解する 正常歩行における上肢帯の運動とその役割について理解する
15	振り返り	学習の習熟度に合わせ補足

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	基礎運動学　第6版補訂 標準理学療法学・作業療法学　解剖学	中村隆一 野村嶬	医歯薬 医学書院	2020年 2020年
参考図書等	プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論/運動器系	坂井建雄、松村譲兒	医学書院	2107年

授業方法	講義 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験。
履修上の注意	人間の運動機能を理解する重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。		

講義科目	運動学演習Ⅰ					
担当講師	齋藤 雄一				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を作る。また、神経の走行・筋の支配神経について理解する。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	概論(オリエンテーション) 筋の機能と形態的変化	動筋・拮抗筋・固定筋・安定筋について理解する。 筋の肥大や萎縮等の形態的変化について理解する。
2	上肢上部総論	肩甲骨・上腕骨の骨指標を理解する。
3	肩甲骨周囲の筋①	肩甲骨周囲の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。
4	肩甲骨周囲の筋②	肩甲骨周囲の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。
5	肩甲骨周囲の筋③	肩甲骨周囲の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。
6	肩関節の筋①	肩関節の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。
7	肩関節と肘関節の筋①	肩関節・肘関節の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。
8	上肢下部総論	橈骨・尺骨・手根骨の骨指標を理解する。
9	前腕の屈筋①	前腕の屈筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。
10	前腕の屈筋②	前腕の屈筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。
11	前腕の伸筋①	前腕の伸筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。
12	前腕の伸筋②	前腕の伸筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。
13	手内在筋・手外在筋	手内在筋・手外在筋について、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。
14	上肢筋の支配神経	神経の走行とその支配筋について理解する。
15	まとめ	学習の習熟度に合わせ補足

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	標準理学療法学・作業療法学　解剖学 基礎運動学　第6版補訂	野村嶬 中村隆一	医学書院 医歯薬出版	2020年 2020年
参考図書等	プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系 運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢、下肢・体幹） ヒューマンアナトミーアトラス（アプリ）	坂井建雄、村松譲兒 青木隆明	医学書院 メジカルビュー社 Visible Body	2007年 2020年 2022年

授業方法	講義・演習（必要に応じて遠隔授業を実施する）	成績評価方法	定期試験（７０％）　演習時の課題（３０％）
履修上の注意	演習を中心に実施していくため、実技着を着用すること。		

講義科目	運動学演習Ⅱ					
担当講師	齋藤 雄一				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を作る。また、神経の走行・筋の支配神経について理解する。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	下肢上部総論	骨盤・大腿骨・脛骨腓骨上部の骨指標を理解する。
2	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋①	股関節の前面・後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。
3	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋②	股関節の外転筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。
4	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋③	股関節の外旋筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。
5	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋④	股関節の内転筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。
6	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋⑤	大腿前面及び後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。
7	下肢下部総論	下腿骨下部・足部の骨指標を理解する。
8	下腿骨下部・足部の筋①	下腿前面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。
9	下腿骨下部・足部の筋②	下腿後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。
10	下腿骨下部・足部の筋③	下腿後面及び外側の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。
11	下肢筋の支配神経	神経の走行とその支配筋について理解する。
12	下肢筋の整理	下肢筋の位置関係と各筋の作用、支配神経について整理する。
13	頭部及び体幹総論	頭頸部の骨指標を理解する。 頭頸部前面の筋の走行と作用を理解する。
14	体幹前面の筋	体幹前面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。
15	体幹後面の筋	体幹後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	標準理学療法学・作業療法学　解剖学	野村嶬	医学書院	2020年
	基礎運動学　第6版補訂	中村隆一	医歯薬出版	2020年
参考図書等	プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系	坂井建雄、村松譲兒	医学書院	2007年
	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）	青木隆明	メジカルビュー社	2020年
	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）	青木隆明	メジカルビュー社	2020年

授業方法	講義・演習 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験（７０％） 演習時の課題（３０％）
履修上の注意	演習を中心に実施していくため、実習着を着用すること。		

講義科目	人間発達学			
担当講師	鳥羽 翔太		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年後期	単位数	2
教育目標	①身体、運動、認知、心理、社会性など各領域の正常な発達過程を理解する。 ②人間を生物学的存在としてでなく社会的存在としてとらえ、各段階の発達課題を理解する。 ③人間発達学を通じて幅広く豊かな人間観を身につける。			

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	人間発達総論	①発達の原則、臨界期、発達段階を説明できる。 ②エリクソン、ピアジェ、フロイトの発達理論を理解する。 ③発達の検査の目的、方法、種類を理解する。
2	姿勢反射•反応	①原始反射、姿勢反射の意義を理解する。 ②反射中枢と出現•消失時期を理解する。 ③原始反射、姿勢反射の検査方法を理解する。
3	胎児期の発達	①胎児の発達過程を理解する。 ②胎児期に出現する反射の確認を行う。
4	新生児期の発達	①新生児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害（早産・低出生体重児）を理解する。
5	乳幼児期の発達	①乳幼児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害（脳性麻痺）の概要を理解する。
6	幼児期の発達	①幼児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害(自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害）の概要を理解する。
7	上肢機能の発達	①上肢機能の発達を理解する。 ②目と手の協調性の発達を理解する。
8	ADLの発達１（食事・排泄・更衣）	①食事の発達を理解する。 ②排泄の発達を理解する。 ③更衣の発達を理解する。
9	ADLの発達２（遊び）	①遊びの発達を理解する。
10	感覚・知覚・認知の発達	①感覚・知覚・認知の発達を理解する。
11	言語・社会性の発達	①言語の発達を理解する。 ②社会性の発達を理解する。
12	学童期の発達	①身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。 ②発達学的課題を理解する。 ③人間発達における性差について理解する。
13	青年期の発達	①身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。 ②発達学的課題を理解する。 ③人間発達における性差について理解する。
14	成人・老年期の発達	①青年期の特徴を理解する。②我が国の高齢化の特徴及び老年期の発達学的特徴を理解する。 ③成人期・老年期の発達課題を理解する。④人間発達における性差について理解する。
15	各期の発達のまとめ	胎児期から老年期まで生涯の発達についてまとめ、理解度に応じて補足を行う

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	イラストでわかる人間発達学	上杉雅之	医歯薬出版株式会社	2019年
参考図書等	リハビリテーションのための人間発達学	大城昌平	メディカルプレス	2015年
	生涯人間発達論	服部祥子	医学書院	2020年
	標準理学療法学・作業療法学 人間発達学	岩﨑清隆	医学書院	2017年

授業方法	講義および演習方式で授業を行う 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	人間の発達を学ぶことは、広くヒトを捉える上で重要な基礎知識となる。また小児科学、子どもを対象とする理学療法・作業療法の評価学・治療学の基礎となる科目である。		

講義科目	リハビリテーション基礎医学Ⅰ					
担当講師	吉田 修一				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	理学療法士・作業療法士にとって、運動・活動は治療に必要不可欠である。本講義では、ヒトが運動・活動するために必要な栄養学を含めた諸要素の基礎、それらへの加齢・不活動の影響及び生活習慣病について学習し、運動の必要性を理解しつつ、実践するために必要な評価・リスク管理及び緊急時の対処方法について理解することを目標とする。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	オリエンテーション・総論	リハビリテーションが必要な疾患、加齢の影響を知り、栄養及び運動の必要性を理解する。また、運動に功罪があることを理解する。
2	運動と筋	筋の収縮とATP産生について理解する。 ATP産生に必要となる栄養素及び酸素について理解する。
3	栄養学の基礎	3大栄養素の消化と吸収及びそれらの役割について理解する。
4	運動と呼吸①	呼吸のメカニズムの基礎を理解する
5	運動と呼吸②	運動時の呼吸変化およびそのメカニズムについて理解する
6	運動と循環①	循環器のメカニズムの基礎を理解する
7	運動と循環②	運動時の循環器の変化及びそのメカニズムについて理解する
8	運動と神経	運動に必要な神経系のメカニズムの基礎を理解する
9	運動とホルモン	運動に必要なホルモンの代表的なものを理解する
10	運動と体温調節	体温の概要及び調節のメカニズムについて理解する
11	体力の測定	体力の中でも特に、持久力の指標について理解する
12	運動量の測定	運動量を測定する指標について理解し、計算ができるようになる
13	加齢と廃用症候群、生活習慣等の影響と予防	加齢および廃用症候群、生活習慣等が体に及ぼす影響とその予防の基礎を理解する
14	栄養療法の活用	主な病態に対する栄養療法を理解する
15	運動時の生体反応とリスク管理、救急救命	運動時のバイタルサインの変化とそれに基づくリスク管理及び対処方法(救急救命）を理解する

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	入門運動生理学	勝田茂	杏林書院	2015年
参考図書等	リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎	栢下淳、若林秀隆	医歯薬出版	
	生化学・栄養学	内山靖	医歯薬出版	
	生体のしくみ標準テキスト（電子書籍）	高松研	医学映像教育センター	

授業方法	講義及びグループワークにて行う 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	リハビリテーションを実施するうえで基礎となる科目です。積極的に講義に参加してください。		

講義科目	リハビリテーション基礎医学Ⅱ					
担当講師	吉田 修一				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	画像及び薬物に関する知識は、理学療法士・作業療法士として患者の病態を把握し、治療プログラムを作成する上で重要な基礎となる。また、医師など他の医療スタッフと共通の認識を持ち、コミュニケーションを図る上でも必要な知識である。そのため、画像及び薬物についての基礎を理解することを目標とする。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	画像診断総論	レントゲン、CT及びMRI等画像の原理について理解する
2	四肢の画像①	四肢における画像の位置関係を理解する
3	四肢の画像②	四肢における画像の位置関係を理解する
4	胸腹部の画像①	胸腹部における画像の位置関係を理解する
5	胸腹部の画像②	胸腹部における画像の位置関係を理解する
6	頭頚部の画像①	頭頚部における画像の位置関係を理解する
7	頭頚部の画像②	頭頚部における画像の位置関係を理解する
8	画像診断の活用方法	実際の症例を用いて画像診断の活用方法を体験する
9	薬物療法総論	薬物療法、薬理作用と作用機序について理解する
10	薬物の体内運命	薬物の吸収・分布・代謝・排泄、相互作用について理解する
11	血圧に関与する薬物療法	血圧（特に降圧）に関与する薬物療法について理解する
12	血栓に関する薬物療法	線溶系の薬物療法について理解する
13	疼痛に関する薬物療法	鎮痛の薬物療法について理解する
14	代謝に関する薬物療法	糖尿病に対する薬物療法について理解する
15	薬物療法の活用方法	実際の症例を用いて薬物療法の活用方法を体験する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	リハビリテーション医療に活かす　画像のみかた リハベーシック　薬理学・臨床薬理学	水間正登 内山靖、藤井浩美、立石雅子	南江堂 医歯薬出版	2019年 2020年
参考図書等	解剖生理学	坂井建雄	医学書院	2018年

授業方法	講義形式にて行う 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	リハビリテーションの実施時に必須の知識となります。自主的に学習を進めてください。		

講義科目	医学概論					
担当講師	新垣 工				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	医療倫理、健康と病気の概念、疾病の分類を学び、病気の診断と治療の概要を理解する。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	医学の倫理	オリエンテーション、医の倫理と生命倫理 ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセント
2	医療の歴史	ヒポクラテスの時代から近代・現代までの医学の歴史
3	健康・病気・医学の体系	健康とは、病気の理解と分類
4	病気の原因	病理学とは、病気の原因
5	病気による身体の変化①	血行障害による病変、進行性・退行性の変化、炎症
6	病気による身体の変化②	腫瘍
7	神経疾患について	神経疾患の病態生理
8	運動器疾患について	運動器疾患の病態生理
9	内部疾患について	内部疾患の病態生理
10	病気の診断	診断の方法
11	病気の治療	治療法の概要
12	病気の予防	予防の原則、予防医学と衛生学、生活習慣病と一次予防
13	医療システム	わが国の医療システムとその役割
14	死の判定	ターミナルケア、尊厳死
15	リハビリテーションとは	リハビリテーションの見方、考え方、その人らしさ

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	学生のための リハビリテーション医学概論 第3版 リハビリテーションビジュアルブック	栢森良二 稲川利光	医歯薬出版 学研	2020年 2016年
参考図書等	現代医学概論	柳澤信夫	医歯薬出版	2015年

授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	医療人になるため、日頃から医療の倫理に関する報道や身近にある様々な疾病に興味を持つように心がけて下さい。		

講義科目	病理学概論			
担当講師	福井 謙二		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年後期	単位数	2
教育目標	①疾患の原因および形態的変化などの基本概念や用語、基本的視点と関連技術に関する知識を捉える ②医療・医学における病理学の役割、意味、位置づけを理解する			

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	病理学概説、病理学の検査法、病因論	①病理学の意義と検査法について説明できる ②疾患の原因について説明できる
2	先天異常・奇形	①先天異常・奇形の定義、分類、病態について説明できる
3	退行性病変、代謝疾患	①退行性病変・代謝障害の種類、病態について説明できる
4	進行性病変	①進行性病変の種類、病態について説明できる
5	循環障害	①循環障害の病因、病態について説明できる
6	炎症	①炎症の定義、病態について説明できる
7	免疫、感染症	①免疫が関係する疾患の成因、、病態について説明できる ②感染の種類について説明できる
8	腫瘍	①腫瘍の定義、分類、病態について説明できる
9	循環器系の疾患	①心奇形、虚血性心疾患、動脈硬化症について説明できる
10	血液、造血器系の疾患	①貧血、白血病について説明できる
11	呼吸器系の疾患	①肺炎、肺の腫瘍、塵肺症について説明できる
12	消化器系の疾患	①胃の腫瘍、腸の炎症性疾患、大腸の腫瘍について説明できる ②肝癌、胆石症、膵癌について説明できる
13	腎、泌尿器、生殖器系の疾患	①腎の腫瘍、泌尿器系の炎症疾患、前立腺の腫瘍、子宮の腫瘍について説明できる
14	神経系の疾患	①神経系の循環障害、変性疾患、脱髄疾患、腫瘍について説明できる
15	運動器系の疾患	①萎縮性筋疾患、骨腫瘍について説明できる

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	系統看護学講座　専門基礎分野　病理学	大橋健一	医学書院	2015年
参考 図書等				

授業 方法	講義形式。適宜画像を供覧。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験
履修上の 注意	国家試験にも出題される科目であると共に、疾病の成り立ちを理解するうえで重要な科目である。また、細胞の病理学的変化はPT・OT評価に通じる基礎知識となるので、しっかりと理解するようにして下さい。		

講義科目	整形外科学					
担当講師	宮野 慎太郎				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	リハビリテーション対象疾患について疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	整形外科基礎知識	①正常な骨の発生と成長及び基本構造を理解する。 ②骨の修復と再生、骨の加齢変化について理解する。 ③関節・骨格筋・神経系の基本構造を理解する。
2	整形外科的治療法	①診療の基本と検査の概要を知る。 ②保存療法の種類・目的・方法の概要を知る。 ③代表的な基本的手術法を知る。
3	外傷総論	①捻挫と脱臼の違いを理解する。 ②骨折の分類と治癒過程を理解する。 ③骨折の症状・合併症及び治療の原則を理解する。
4	骨折と脱臼①上肢 （小児骨折含む）	①受傷転機、好発部位、年齢、転位、合併症、治療を理解する。
5	骨折と脱臼②下肢 （小児骨折含む）	①受傷転機、好発部位、年齢、転位、合併症、治療を理解する。
6	末梢神経損傷	①末梢神経損傷の分類及び特徴、病態像を理解する。 ②末梢神経損傷の診断と治療を理解する。
7	靭帯損傷	①代表的な靭帯損傷の症状・診断・治療を理解する。
8	脊椎疾患	①頚椎疾患の検査、症状、年齢、治療を理解する。 ②胸腰椎疾患の検査、症状、年齢、治療を理解する。
9	脊髄損傷	①脊髄損傷の概念を理解する。 ②脊髄損傷の受傷機転、病態を理解する。
10	脊髄損傷	①脊髄損傷の症状を理解する。 ②脊髄損傷の治療を理解する。
11	炎症性疾患	①軟部組織・骨・関節の感染症の代表的な疾患を理解する。 ②関節リウマチの症状・診断及び治療の概要を理解する。 ③関節リウマチ類似疾患を理解する。
12	慢性関節疾患（退行性・代謝性）	①変形性関節症の病態・症状及び治療を理解する。 ②痛風の病態・症状・及び治療を理解する。
13	代謝性骨疾患	①骨粗鬆症の病態・症状及び治療を理解する。 ②くる病・骨軟化症の病態及び治療を理解する。
14	骨・軟部組織腫瘍 熱傷・切断	①骨腫瘍・軟部組織腫瘍の発生及び治療を理解する。 ②熱傷の深度と範囲による重症度、関節拘縮や変形を理解する。 ③切断の概念・評価・断端管理、合併症を理解する。
15	先天性骨関節疾患 循環障害と壊死性疾患	①代表的な先天性骨関節疾患の病態を理解する。 ②四肢の循環障害、壊死性疾患の病態及び症状を理解する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	標準整形外科　第14版	内田淳正	医学書院	2020年
参考 図書等				

授業 方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験
履修上の 注意	理学療法、作業療法臨床において対象となることの多い疾病であり、専門領域につながる重要な科目てある。暗記だけでなく、疾病の成り立ちを理解するよう復習をして下さい。		

講義科目	内科学					
担当講師	吉田 修一				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	内科疾患について疫学及び予後、病因と症状（疾病の成り立ち）、検査および代表的な治療を理解する。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	内科学とは 内科的診断と治療の実際	①内科学の概念について理解する。 ②内科的診断における診察法とその臨床的意義について理解する。 ③臨床検査について、その内容、実施方法、意義を理解する。
2	症候学	①主要な症候の概念とそのメカニズムを理解する。 ②主要な症候を生じる病態とその関連疾患を学習する。
3	循環器疾患 ①	①虚血性心疾患、高血圧の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について理解する。 ②虚血性心疾患、高血圧をもつ患者の理学療法・作業療法を実施する際の留意点を知る。
4	循環器疾患 ②	①正常な12誘導心電図を理解する。 ②主な不整脈について波形の特徴、循環動態を理解する。
5	循環器疾患 ③	①主要な循環器疾患の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について理解する。 ②循環器疾患をもつ患者の理学療法・作業療法を実施する際の留意点を学修する。
6	呼吸器疾患 ①	①呼吸機能を測定する検査法と基準値について理解する。 ②呼吸リハビリテーションについて知る。
7	呼吸器疾患 ②	①主要な呼吸器疾患の概念、病態生理、症状、検査、治療および予後について理解する。　②呼吸リハビリテーションについて知る。
8	消化管疾患	①主要な消化管疾患の症候、病態生理について理解する。 ②主な消化管疾患の概念、診断法、症状、治療法について知る。
9	肝胆膵疾患	①主要な肝臓、胆道軽、膵臓、腹膜疾患の症候、病態生理、症状について理解する。 ②主な肝臓、胆道系、膵臓、腹膜疾患の検査法、治療法を知る。
10	血液・造血器疾患	①貧血、リンパ節腫脹、出血性病変などの主な症状について知る。 ②主要な血液疾患の概念、病態、診断法、予後について理解する。
11	代謝性疾患 ①	①糖代謝、蛋白質代謝、脂質代謝のつながりを知る。 ②糖尿病、痛風の病態と臨床的特徴を理解する。
12	代謝性疾患 ②	①主要な代謝性疾患の病態と臨床的特徴を理解する。 ②ビタミン欠乏症・過剰症の臨床的特徴を理解する。
13	内分泌疾患	①ホルモンの作用機序を理解する。 ②主要な内分泌疾患の概念、病態、治療法を学修する。
14	腎・泌尿器疾患 アレルギー疾患	①腎機能が障害されて起こる症状を理解する。 ②主要な腎疾患、泌尿器疾患の概念、病態、症状、検査法、治療法について理解する。 ③アレルギー反応のⅠ～Ⅴ型の生じ方と関連疾患について理解する。
15	膠原病と類縁疾患、免疫不全症	①主要な膠原病と類縁疾患の症状、診断、治療について理解する。 ②免疫不全による疾患について理解する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	標準理学療法学・作業療法学　内科学	大成浄志	医学書院	2020年
参考図書等	病気がみえる vol.1 消化器　第5版	医療情報科学研究所 (編集)	メディックメディア	2016年
	病気がみえる vol.2 循環器　第3版	医療情報科学研究所 (編集)	メディックメディア	2010年
	病気がみえる vol.4 呼吸器　第2版	医療情報科学研究所 (編集)	メディックメディア	2013年

授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	近年、内科領域のリハビリテーションの重要性が高まっており専門分野の基礎となる重要な科目です。国家試験に出題されることの多い疾患を中心に疾病の成り立ちを理解するよう心がけて下さい。		

講義科目	神経内科学					
担当講師	藤枝 寿光				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	各疾患の疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	神経内科学オリエンテーション	①神経内科学を学ぶ目的を理解する。 ②中枢神経と末梢神経の違いを理解する。
2	神経学的検査と臨床検査①	①脳の構造と機能の概要を理解する。 ②画像診断の基礎知識と診断基準を理解する。
3	神経学的検査と臨床検査②	①脳脊髄液の検査と診断基準を理解する。 ②脳神経検査，身体機能検査の診断基準を理解する。
4	神経症候学(1)	①頭蓋内圧亢進症状を理解する。 ②上位運動麻痺と下位運動麻痺の違いを理解する。 ③筋萎縮を理解する。
5	神経症候学(2)	①錐体外路の機能を理解する。 ②錐体外路徴候を理解する。 ③錐体路徴候と錐体外路徴候の違いを理解する。
6	神経症候学(3)	①運動失調の原因と病態を理解する。 ②運動麻痺と運動失調の違いを理解する。 ③感覚障害の分布と特徴を理解する。
7	脳血管障害(1)	①脳血管障害の分類及び危険因子，病態を理解する。 ②脳血管障害の診断と治療の概要を理解する。
8	脳血管障害(2)	①脳出血の発生機序，診断と治療及び予後，疫学等を理解する。 ②くも膜下出血の発生機序，診断と治療及び予後，疫学等を理解する。 ③脳梗塞の発生機序，診断と治療及び予後，疫学等を理解する。
9	脳血管障害(3)	①水頭症の発生機序、診断と治療を理解する。 ②慢性硬膜下血腫の発生機序，診断と治療を理解する。 ③脳外傷の発生機序，分類，診断と治療を理解する。
10	髄膜炎・脳腫瘍	①髄膜炎の病態及び症状を理解する。 ②脳腫瘍の部位と好発年齢及び予後の関係を理解する。 ③脳腫瘍の診断と治療を理解する。
11	認知症	①認知症を伴う代表的な疾患を理解する。 ②脳血管性認知症とアルツハイマー病の違いを理解する。 ③代表的な認知症疾患の病態及び症状の特徴を理解する。
12	変性疾患(1)	①パーキンソン病の病態及び症状を理解する。 ②パーキンソン症候群の病態及び症状を理解する。 ③パーキンソン病とパーキンソン症候群の違いを理解する。
13	変性疾患(2)	①脊髄小脳変性症の病態及び症状を理解する。 ②多系統委縮症の病態及び症状を理解する。
14	脱髄疾患	①脱髄疾患の病態を理解する。 ②多発性硬化症の症状を理解する。 ③ギランバレー症候群の症状を理解する。
15	神経筋疾患	①筋萎縮性側索硬化症の病態と症状を理解する。（神経原性） ②筋ジストロフィー症（典型例）の病態と症状を理解する。（筋原性） ③重症筋無力症の病態と症状を理解する。(神経筋接合部)

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	標準理学療法学・作業療法学　神経内科学 病気が見える７（脳・神経）	川平和美 医療情報科学研究所	医学書院 Medic Media	2019年 2017年
参考図書等				

授業方法	教科書にそって講義を行う。適宜画像を提示。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	解剖生理学に関わらせながら授業の復習を行い確実に理解を深めて下さい。神経内科に関連する基礎・専門は国家試験出題率が高い領域です。		

講義科目	臨床心理学			
担当講師			授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年後期	単位数	2
教育目標	人間行動の基礎理論を学び、正常及び異常心理の評価と行動療法等の心理療法を理解する。			

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	臨床心理学とは	①臨床心理学の定義を理解する。 ②臨床心理学の基本構造を理解する。 ③臨床心理学の成り立ちを理解する。
2	臨床心理学の実践活動	①臨床心理学の実践活動の過程を理解する。 ②実践活動の3技能を理解する。 ③学派の成立と現在の代表的理論モデルの中心仮説を理解する。
3	臨床心理学の基礎理論	①ナラティブアプローチの概要を理解する。 ②エンパワーメントの概要を理解する。 ③ストレスモデルの概要を理解する。
4	心を理解する：心理検査法①	①アセスメントの概要を理解する。 ②質問紙法と投映法の特徴と代表的な検査法を理解する。 ③認知検査の概念と代表的検査法を理解する。
5	心を理解する：心理検査法②	①行動分析の基本的理論を理解する。 ②機能分析の方法を理解する。 ③異常心理の基準を理解する。
6	ライフサイクルと心理問題①	①エリクソンの生涯発達理論を理解する。
7	ライフサイクルと心理問題②	①乳幼児期から児童期の心理問題を理解する。 ②思春期の心理問題を理解する。
8	ライフサイクルと心理問題③	①青年期の心理問題を理解する。 ②中年期の心理問題を理解する。 ③老年期の心理問題を理解する。
9	ライフサイクルと心理問題④	①乳幼児期から老年期まで一連の心理問題を理解する。
10	心理療法の理論モデル① 精神分析	①フロイトの「心の力学」を理解する。 ②防衛機制を理解する。 ③ユングの無意識に対する考え方を理解する。
11	心理療法の理論モデル② 行動療法と認知行動療法	①行動療法と学習理論の考え方を理解する。 ②行動療法の技法を理解する。 ③行動療法から現在の認知行動療法への系譜を理解する。
12	心理療法の理論モデル③ 森田療法,内観療法,箱庭療法,夢分析	①森田療法の理論と方法を理解する。 ②内観療法、箱庭療法、夢分析の概要を理解する。
13	心理療法の理論モデル④ 自律訓練法,系統的脱感作法,集団療法	①自律訓練法の理論と効果を理解する。 ②系統的脱感作法の概要を理解する。 ③集団療法の定義とグループ・ダイナミックスを理解する。
14	心理療法の実際 クライエントの心理反応とセラピストの態度	①心理療法の実際の流れを理解する。 ②反動形成，転移などの心理反応を理解する。 ③セラピストの基本的態度を理解する。
15	まとめ	学習の習熟度に合わせ補足

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	面白いほど良くわかる　臨床心理学	下山晴彦	西東社	2014年
参考 図書等	よくわかる臨床心理学 公認心理師必携テキスト	下山晴彦 福島哲夫	ミネルヴァ書房 学研メディカル秀潤社	2011年 2018年

授業 方法	教科書に沿い講義および演習を行う 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の 注意	国家試験でも重要な科目であると共に、対人援助職にとって重要な知識であるので興味をもって授業に臨んで下さい。		

講義科目	精神医学			
担当講師			授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年後期	単位数	2
教育目標	各疾患について疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。			

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	精神医学とは何か	①精神医学の定義及び概念を理解する。 ②精神障害の成因と発症機序を理解する。 ③精神障害の分類を理解する。
2	精神機能の障害と精神症状	①精神機能の種類と精神症状を理解する。 ②精神症状の特徴を理解する。 ③精神症状の生活への支障を理解する。
3	精神障害の診断と評価	①精神障害の診断や評価の基本概念を理解する。 ②面接・観察・情報収集のポイントを理解する。 ③検査法や評価尺度を学ぶ。
4	脳器質性精神障害	①器質性精神障害の概念を理解する。 ②代表的な認知症の症状、生活障害を理解する。 ③特徴的な脳器質性・症候性精神障害を学ぶ。
5	アルコール関連精神障害	①依存症による精神障害の概念を理解する。 ②アルコール依存症の特性を理解する。 ③アルコール依存症の後遺障害、生活障害を学ぶ。
6	薬物精神作用物質依存 てんかん	①依存物質・薬物の種類や特性を理解する。 ②精神依存・身体依存・耐性と依存物質の関係を学ぶ。 ③てんかんの発生機序、分類、症状などの特性を学ぶ。
7	統合失調症及び関連の精神障害	①統合失調症の発生機序、病態、病型を理解する。 ②症状・障害を理解する。 ③治療の方針、経過、予後、生活への影響について学ぶ。
8	統合失調症及び関連の精神障害	①統合失調症の病期、回復過程に応じた治療・リハビリテーションを学ぶ。 ②特徴的症状の治療、経過を学ぶ。 ③生活支援、社会的予後を学ぶ。
9	気分障害	①気分障害の概念、捉え方を理解する。 ②症状、障害、治療方針、回復過程、経過、予後を学ぶ。
10	気分障害	①躁うつ病の発生機序、病態、病型を理解する。 ②症状、障害、治療方針、回復過程、経過、予後を学ぶ。 ③気分障害の生活への影響を学ぶ。
11	神経症圏精神障害	①神経性障害の概念、捉え方を学ぶ。 ②不安、恐怖、強迫症とは何かを学ぶ。 ③ストレス関連障害について学ぶ。
12	神経症圏精神障害	①摂食障害、身体表現性障害、心身症について学ぶ。 ②人格障害の概念、捉え方を理解する。 ③人格障害の特性を理解する。
13	精神発達遅滞 心理的発達障害	①精神遅滞、ダウン症について理解する。 ②広汎性発達障害の特性を理解する。 ③行動障害について理解する。
14	精神障害の治療とリハビリテーション	①精神障害への医学的・治療的捉え方、リハビリテーションを理解する。 ②生活支援、社会資源、法的背景などを学ぶ。 ③精神医学を総括的に理解する。
15	まとめ	学習の習熟度に合わせ補足

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	学生のための精神医学	太田保之	医歯薬出版	2014年
参考 図書等	標準理学療法学・作業療法学　精神医学	上野武治	医学書院	2015年

授業 方法	教科書、スライド、ＤＶＤを用い講義 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	各精神障害について、原因,発生機序,症状,検査,診断,治療,経過,予後,疾患特性などが結びつき、疾患単位で障害を理解できるような学習が必要。そのため予習復習など主体的に学習を行うことが大切である。		

講義科目	リハビリテーションと理学療法Ⅰ					
担当講師	新垣 工				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	理学療法士という専門職の役割を認識し、「あらゆる人々が健康で自立した生活の実現に貢献する」ことを使命とするプロフェッショナリズムとしての行動素地を身に付けることが出来る。その上で自らの目標・課題が明確となり今後の指標とすることが出来る。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	学修の在り方の理解	講義、教科書、参考文献から重要事項や課題点・目標などを設定できる。 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを表現できる。
2	理学療法士の定義	理学療法士の役割について知る
3	医療倫理と理学療法倫理	倫理の原則について理解し、遵守して実践できる 医療及び理学療法の倫理に関する規範・原則を説明できる
4	理学療法士の活動分野１	理学療法士の活動分野について理解する
5	理学療法士の活動分野２	理学療法士の活動分野について理解する
6	理学療法士の活動実践１	急性期・回復期・維持期・予防・ウィメンズ、メンズヘルスなどで活動しているセラピストから理学療法実践についての話を聞き活動内容について理解する。
7	理学療法士の活動実践２	急性期・回復期・維持期・予防・ウィメンズ、メンズヘルスなどで活動しているセラピストから理学療法実践についての話を聞き活動内容について理解する。
8	理学療法士の活動実践３	急性期・回復期・維持期・予防・ウィメンズ、メンズヘルスなどで活動しているセラピストから理学療法実践についての話を聞き活動内容について理解する。
9	理学療法士の活動実践４	急性期・回復期・維持期・予防・ウィメンズ、メンズヘルスなどで活動しているセラピストから理学療法実践についての話を聞き活動内容について理解する。
10	対象者の理解	インフォームドコンセントの必要性について理解する 障害受容過程について理解する
11	グループワーク・キャリアデザイン	自らのキャリアデザインについて考える①
12	グループワーク・キャリアデザイン	自らのキャリアデザインについて考える②
13	グループワーク・キャリアデザイン	自らのキャリアデザインについて発表する
14	理学療法教育・臨床実習	理学療法教育の歴史について理解できる 臨床実習の目的について理解できる
15	理学療法士に必要な能力	臨床現場で求められる能力について理解し、自らの課題について考えることができる

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	理学療法概論テキスト リハビリテーションビジュアルブック	細田多穂 稲川利光	南江堂 学研	2017年 2018年
参考図書等	理学療法学テキストⅠ 理学療法学概論 第4版 リハビリテーション職種のキャリア・デザイン	千住 秀明、田原弘幸、高橋精一郎 大町かおり、高木綾一	神陵文庫 シービーアール	2013年 2019年

授業方法	講義及びグループワークにて行う 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	提出課題
履修上の注意	リハビリテーション専門職となるための入門授業である。 実際のリハビリテーションの在り方を学び、将来の自己イメージを高めて下さい。		

講義科目	リハビリテーションと理学療法Ⅱ					
担当講師	井上 祥教				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	私たちが働く領域は制度に基づく。その社会保障制度を理解したうえで、チームにおけるリハビリテーション職種の役割を認識する。 また、対象者理解に必要な視点を身に付ける。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	社会保障制度	保健医療福祉施策の動向について理解することができる
2	医療保険制度	医療保険制度について理解することが出来る
3	介護保険制度	介護保険制度について理解することが出来る
4	障害者総合支援法	障害者総合支援法について知る就労支援及び自立支援について知る
5	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの概要について知る
6	理学療法士・作業療法士法とは	理学療法士及び作業療法士法について理解する。 法令に基づく理学療法士の在り方について理解する。
7	関連職種の理解と関わり方１	リハビリテーション医療とは何か理解する。また関連職種の役割を知る。 健康と生活機能の評価
8	関連職種の理解と関わり方２	リハビリテーション医療とは何か理解する。また関連職種の役割を知る。 健康と生活機能の評価
9	障害のとらえ方１	国際生活機能分類
10	障害のとらえ方２	事例検討
11	予防医療	予防の概念について理解する。予防理学療法とはどのような内容か説明できる
12	コンプライアンス・個人情報管理について	コンプライアンスとは何かについて説明できる。 個人情報とは何かについて理解し、漏洩防止策について説明できる。
13	医療事故	医療事故、院内感染について説明できる。 医療事故が発生した場合の対応について説明できる。
14	研究によるエビデンス	研究の意義について説明できる エビデンスレベルについて説明できる
15	救急救命（BLS)	救急救命法について経験する

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	理学療法概論テキスト リハビリテーションビジュアルブック	細田多穂 稲川利光	南江堂 学研	2017年 2018年
参考図書等	理学療法学テキストⅠ 理学療法学概論 第4版 理学療法概論　第1版	千住秀明 庄本康治	神陵文庫 羊土社	2013年 2017年

授業方法	講義及びグループワークにて行う 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	理学療法士は制度の下で働きます。働くために必要な制度や視点を身近な事例から考えられるように想像力を深めてください。		

Ⅲ. 理学療法学科　専門分野

講義科目	基礎理学療法学Ⅰ					
担当講師	川人 裕也				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	理学療法の基礎を築くために基本動作と生体反応を主軸とした理論について体験を通して学ぶ。 あわせて、提出期限の厳守、積極性、協調性等の職業適性を身につける。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	オリエンテーション	授業の進め方、レポート提出、グループワークの約束について理解する。
2	基本姿勢と基本動作の概要	基本姿勢・基本動作について関連付けて理解する。
3	基本姿勢	基本姿勢について、名称、肢位、支持基底面の広さ、姿勢の特徴について理解する。
4	基本動作	基本動作ついて、動作を相分けして、肢位と運動方向、支持基底面の広さと重心の位置、動作の特徴について理解する。
5	障がい体験 ①	指定した動作を実際に体験する。
6	障がい体験 ②	指定した動作を実際に体験する。
7	障がい体験 ③	体験した内容の感想を発表し、どのようなリハビリが適応となるか考える。
8	動作観察①	動作困難な原因を仮説立案する。
9	動作観察②	動作困難な原因を仮説立案する。
10	筋と関節運動	筋の起始、停止、関節運動について理解する。
11	ストレッチ	Ib抑制を用いたストレッチを体験し評価する。
12	筋力増強訓練①	上肢の筋力増強訓練についてグループ学習し、バイタル測定を実施する。
13	筋力増強訓練②	下肢の筋力増強訓練についてグループ学習し、バイタル測定を実施する。
14	持久力増強訓練	Karvonen法と運動強度について説明し、体験する。 運動前後の生体反応について理解し、バイタル測定を実施する。
15	筋力、持久力増強訓練のまとめ	筋力・持久力増強運動について理解する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書				
参考 図書等	必要に応じて授業中に提示する。			

授業 方法	講義、グループワーク、演習 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	レポート提出状況(20%×1) 定期試験(80%)にて評価する。
履修上の 注意	グループでの活動が多いため、協調性を意識して積極的に行動すること。		

講義科目	基礎理学療法学Ⅱ					
担当講師	森 政人				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	理学療法の基礎を築くために予防医学と現代医療を主軸とした理論について体験を通して学ぶ。 あわせて、提出期限の厳守、積極性、協調性等の職業適性を身につける。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	オリエンテーション 理学療法の対象と関連科目	授業の進め方、グループワークの約束について説明する。 理学療法の対象とその関連科目について理解する。
2	感染症とその対策 ①	感染症の概要と標準的予防策(standard precaution)について理解する。
3	感染症とその対策 ②	【演習】 手洗い、うがいを実践的に学ぶ。
4	加齢変化と廃用症候群	加齢に伴う身体変化と廃用症候群について理解する。
5	高齢者体験 ①	【演習】 高齢者にとって障壁となる動作、機能、環境を想定し、それらの対策案を話し合う。
6	高齢者体験 ②	【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。
7	高齢者体験 ③	【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。
8	高齢者体験 ④	高齢者体験についてグループ発表を行う。
9	高齢者体験 ⑤	高齢者体験についてグループ発表を行う。　（レポート：1回目）
10	車椅子体験①	車椅子の名称や種類について理解する。 車椅子利用者にとって、障壁となる道路や施設の特徴についての対策案を話し合う。
11	車椅子体験②	【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。車椅子体験
12	車椅子体験③	【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。車椅子体験
13	車椅子体験④	車椅子体験についてグループ発表を行う。　（レポート：2回目）
14	チーム医療と包括的リハビリテーション ①	チーム医療に必要な資質面、認知面、精神運動面を考察し、検討する。
15	チーム医療と包括的リハビリテーション ②	チーム医療と包括的リハビリテーションについて調査し、具体例を検討する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書				
参考 図書等	老年学 第5版 標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野	奈良 勲	医学書院	2020/1/27

授業 方法	講義、グループワーク、演習 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	レポート提出状況(10%×2) 定期試験(80%)にて評価する。
履修上の 注意	グループでの活動が多いため、協調性を意識して積極的に行動すること。		

講義科目	生活機能演習					
担当講師	古井 雅也				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	①ICFにおける「生活機能」を理解する。 ②ICF視点で模擬症例を通して生活機能障害の構造を理解する。 ③模擬症例を通して生活機能障害に対する課題解決能力を身につける。 ④模擬症例を通して生活期（在宅）の生活機能障害と、社会資源の利用を含めた多職種連携を理解する。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	オリエンテーション ICFにおける生活機能　概要	ICFの構成を確認し、生活機能の構成要素とその関連を理解する。
2	ICFにおける生活機能　詳細	ICFにおける生活機能の各項目の詳細を理解する
3	生活機能と環境因子・個人因子　概要	ICFの構成を確認し、生活機能と環境因子・個人因子の関連を理解する
4	模擬症例紹介	模擬症例（中枢神経系障害・運動器系障害患者）を参照し、レポート作成の方法を理解する
5	運動器系障害患者の生活機能① （生活機能低下）	運動器系障害患者における生活機能の低下を想定する
6	運動器系障害患者の生活機能② （評価）	生活機能の低下に対する評価項目を列挙する
7	運動器系障害患者の生活機能③ （理学療法）	生活機能の低下に対する理学療法を立案する
8	運動器系障害患者の生活機能④ （予防）	生活機能の低下に対する予防・ライフスタイル変容のための指導、患者教育を考える
9	運動器系障害患者の生活機能⑤ （まとめ）	グループで発表を行い、聴講し、理解を深める
10	中枢神経系障害患者の生活機能① （生活機能低下）	中枢神経系障害患者における生活機能の低下を想定する
11	中枢神経系障害患者の生活機能② （評価）	生活機能の低下に対する評価項目を列挙する
12	中枢神経系障害患者の生活機能③ （理学療法）	生活機能の低下に対する理学療法を立案する
13	中枢神経系障害患者の生活機能④ （予防）	生活機能の低下に対する予防・ライフスタイル変容のための指導、患者教育を考える
14	中枢神経系障害患者の生活機能⑤ （まとめ）	グループで発表を行い、聴講し、理解を深める
15	ICFにおける生活機能	症例を通して学んだ生活機能の理解を確認する

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	ICFの理解と活用	上田敏	萌文社	2005年
参考 図書等	配布資料 整形外科ビジュアルリハビリテーション 病気が見える７（脳・神経）	 稲川利光 医療情報科学研究所	 学研メディカル秀潤社 Medic Media	 2021年 2017年

授業 方法	グループワーク及び調べ学習、レポート作成 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う
履修上の 注意	グループワークを中心にレポートを作成します。個々の調べ学習をグループで集約し、知識を深めましょう。		

講義科目	臨床運動学演習Ⅰ					
担当講師	川人 裕也				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	理学療法を科学的に実施するために、正常の身体運動の分析と方法を理解する。測定機器を用いて、客観的データに基づいた身体運動における関節・筋活動の理解および運動に対する生理的反応を確認し理解を深める。また、得られた測定結果に対して考察することが出来るようになることを目標とする。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	臨床運動学概論	①臨床運動学の意義・目的・範囲を理解する。 ②動作分析は運動学と運動力学からなることを理解する。
2	動作分析の基礎知識①	①運動力学の基本を説明できる（重力・重心・ベクトル）
3	動作分析の基礎知識②	①運動力学の基本を説明できる（物理学の法則、モーメント）
4	姿勢分析①	①動作分析の手順が説明できる。 ②正常な姿勢を理解する。分析の方法を計画する。
5	姿勢分析②	①観察した内容に対しての考察を記載する。 ②姿勢分析について説明する。（発表）
6	立ち上がり動作分析①	①高い椅子と低い椅子で比較する。 ②速い立ち上がりと遅い立ち上がりを比較する。以上2点を中心に立ち上がりを分析する。
7	立ち上がり動作分析②	①なぜ低い椅子で筋力を必要とするのか説明できる。 ②なぜ速い立ち上がりのほうが筋力を必要とするのか説明できる。
8	寝返り・起き上がりの動作分析①	①寝返り・起き上がり動作を理解する。
9	寝返り・起き上がりの動作分析②	①観察した内容に対しての考察を記載する。
10	寝返り・起き上がりの動作分析③	①観察した内容に対しての考察を記載する。 ②観察した内容に対しての分析内容について説明する。（発表）
11	歩行分析①	①歩行について理解する（相分け、関節の動き）
12	歩行分析②	①歩行について理解する（床反力、筋活動） ②歩行分析方法を計画する。
13	歩行分析③	①歩行観察した内容に対しての考察を記載する。
14	歩行分析④	①歩行分析内容について説明する。（発表）
15	姿勢・動作分析まとめ	①筋電図や三次元動作解析装置、床反力計などを用いて動作を考える。 ②歩行支援ロボットの臨床活用について理解する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	動作分析臨床活用講座 観察による歩行分析	石井慎一郎 月城慶一（訳）	ﾒｼﾞｶﾙﾋﾞｭｰ社 医学書院	2013年 2005年
参考図書等				

授業方法	講義と実技 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	臨床において必要な知識・技術であるため、しっかりと復習して下さい。		

講義科目	臨床運動学演習Ⅱ					
担当講師	加藤 智彦				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	異常な活動・動作を分析し、問題点の理解を客観的に出来るようになることを目標とする。また、得られた測定結果に対して考察することが出来るようになることを目標とする。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	異常姿勢・姿勢分析	①疾患別の特徴的な姿勢を理解する。 ②疾患別の画像を観察し記載する。
2	運動器系疾患の歩行分析①	①運動器系疾患（1）の歩行の特徴を考える。 ②運動器系疾患（1）の歩行を観察し、模倣する。
3	運動器系疾患の歩行分析②	①運動器系疾患（1）の歩行観察内容を記載する。 ②観察した異常歩行の原因について考察し記載する。
4	運動器系疾患の歩行分析③	①観察した運動器系疾患の歩行について説明する。 ②運動器系疾患（2）の歩行の特徴を考える
5	運動器系疾患の歩行分析④	①運動器系疾患（2）の歩行を観察し、模倣する。 ②運動器系疾患（2）の歩行観察内容を記載する。
6	運動器系疾患の歩行分析⑤	①観察した異常歩行の原因について考察し記載する。 ②観察した運動器系疾患の歩行について説明する。
7	中枢神経系疾患の寝返り・起き上がりの動作分析①	①片麻痺患者の寝返り・起き上がりの特徴を考える。 ②片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を観察する。 ③片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を模倣する。
8	中枢神経系疾患の寝返り・起き上がりの動作分析②	①片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を記載する。 ②観察した内容について考察し記載する。
9	中枢神経系疾患の寝返り・起き上がりの動作分析③	①観察した寝返り・起き上がり動作について説明する。
10	中枢神経系疾患の立ち上がり動作分析①	①片麻痺患者の立ち上がりの特徴を考える。④立ち上がり動作を記載する。 ②片麻痺患者の立ち上がり動作を観察する。 ③片麻痺患者の立ち上がり動作を模倣する。
11	中枢神経系疾患の立ち上がり動作分析②	①観察した立ち上がり動作について説明する。
12	中枢神経系疾患の歩行分析①	①中枢神経系疾患の歩行の特徴を考える。 ②中枢神経系疾患の歩行を観察する。 ③中枢神経系疾患の歩行を模倣する。
13	中枢神経系疾患の歩行分析②	①中枢神経系疾患の歩行観察内容を記載する。 ②観察した内容について考察し記載する。
14	中枢神経系疾患の歩行分析③	①観察した中枢神経系疾患の歩行について説明する。
15	基本動作・歩行振り返り	①運動器疾患・中枢神経系疾患の基本動作・歩行を確認する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	動作分析 臨床活用講座 観察による歩行分析	石井慎一郎 月城慶一（訳）	ﾒｼﾞｶﾙﾋﾞｭｰ社 医学書院	2013年 2005年
参考図書等				

授業方法	講義と演習 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	演習を通して運動機能学への総合的理解が必要となります。しっかりと復習して下さい。		

講義科目	理学療法管理学					
担当講師	新垣 工				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　3年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	理学療法の職場管理学において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学ぶ。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	理学療法の実施と対価	診療報酬・介護報酬・補装具の給付、貸与について説明できる。
2	理学療法の実施後の管理	診療記録と書類管理（電子カルテ、リハビリテーション総合実施計画書などを含む）について説明できる。
3	理学療法の実施における他職種との業務調整	理学療法実施における、処方内容の確認や他職種への申し送り、多職種連携とカンファレンスについて説明できる。
4	理学療法機器の管理	理学療法機器の保守点検・安全管理、配置計画について説明できる。
5	人事考課	職員採用・昇格審査について説明できる。
6	労務管理	勤務時間・休暇管理について説明できる。
7	理学療法倫理①	コンプライアンス・法令違反・ハラスメントについて説明できる。
8	理学療法倫理②	①医療広告ガイドラインについて説明できる。 ②対象者・他職種との利害衝突、コンフリクトマネジメントについて説明できる。
9	理学療法士国家試験	①理学療法士国家試験の出題基準について説明できる。
10	診療参加型実習	①理学療法士養成における臨床実習の到達目標について説明できる。 ②診療参加型実習について説明できる。
11	臨床実習前後の評価	臨床実習前後の評価（OSCE等）について説明できる。
12	臨床教育の方法	メンター制、プリセプター制について説明できる。
13	生涯学習制度	①生涯学習制度について説明できる。 ②理学療法に関する職能団体とその役割を説明できる。
14	理学療法管理、倫理、教育	理学療法管理、倫理、教育について復習、確認を行う。
15	理学療法士のキャリア開発の実際	①理学療法士におけるキャリア開発の実際がイメージできる。 ②キャリア開発の必要性を説明できる。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	PTOTビジュアルテキスト　リハビリテーション管理学	斎藤昭彦	羊土社	2020
参考図書等	ＰＴ・ＯＴのための臨床技能とＯＳＣＥ	才藤栄一	金原出版	2017

授業方法	講義	成績評価方法	定期試験にて判断する。
履修上の注意	予習、復習に努め自主的に学習して下さい。		

講義科目	基礎評価学演習Ⅰ					
担当講師	森 政人				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	理学療法を実施するための評価、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム作成などの一連の思考過程を学ぶ。特に基本となる医療面接、バイタルサイン、関節可動域測定などに関して理解し実施および記録できることを目標とする。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）	№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	総　論	①オリエンテーション ②理学療法評価とは	16	関節可動域測定 ⑥	①股関節
2	医療面接	①コミュニケーションとは ②医療面接とは	17	関節可動域測定 ⑦	①股関節
3	バイタルサイン ①	①バイタルサインとは ②バイタルサインの臨床的意義	18	関節可動域測定 ⑧	①膝関節 ②足関節
4	バイタルサイン ②	①血圧・脈拍測定の実際	19	関節可動域測定 ⑨	①足部の関節　②肩甲帯
5	バイタルサイン ③	①血圧・脈拍測定の実際	20	関節可動域測定 ⑩	①頸部　②胸腰部　③その他の検査法
6	触　診	①ランドマークの触診	21	関節可動域測定 ⑪	①まとめと復習
7	形態測定 ①（総論）	①四肢長測定の意義・目的 ②四肢長測定（上肢）	22	関節可動域測定 ⑫	①まとめと復習
8	形態測定 ②	①四肢長測定（下肢）	23	反射検査 ①（総論）	①反射検査の意義・目的
9	形態測定 ③	①四肢周径測定の意義・目的 ②四肢周径測定（上肢）	24	反射検査 ②	①深部腱反射（上肢）
10	形態測定 ④	①四肢周径測定（下肢）	25	反射検査 ③	①深部腱反射（下肢）
11	関節可動域測定 ①（総論）	①関節可動域測定の意義・目的	26	反射検査 ④	①表在反射
12	関節可動域測定 ②	①肩関節	27	反射検査 ⑤	①病的反射
13	関節可動域測定 ③	①肩関節	28	反射検査 ⑥	①まとめと復習
14	関節可動域測定 ④	①肘関節　②手関節	29	理学療法評価の概要	①バイタルサイン、形態測定、関節可動域測定、反射検査における解釈と統合
15	関節可動域測定 ⑤	①前腕　②手指の関節	30	まとめ	①バイタルサイン、形態測定、関節可動域測定、反射検査のまとめ

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	理学療法評価学　改訂第6版	松澤正、江口勝正	金原出版株式会社	2016年
参考図書等	ベッドサイドの神経の診かた	田崎義昭	南山堂	2016年

授業方法	演習および講義 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	知識として頭で覚えるだけでなく、実際に体を動かし、繰り返し練習して技術を習得するよう心がけてください。練習の際は、他者から指摘を受けられるよう、3人以上で行うことが望ましいです。		

講義科目	基礎評価学演習Ⅱ					
担当講師	松本 芳和				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	評価学演習Ⅰにて学習した内容を踏まえ、理学療法において必要な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）	№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	総　論	評価学演習Ⅰからの流れ（評価の位置づけなど）の再確認	16	徒手筋力検査法 肩甲帯 ①	肩甲帯の徒手筋力検査法演習 ①
2	疼痛検査 ①	疼痛の概念	17	徒手筋力検査法 肩甲帯 ②	肩甲帯の徒手筋力検査法演習 ②
3	疼痛検査 ②	①疼痛検査の方法と演習 ②情報収集と医療面接の方法	18	徒手筋力検査法 頭頸部・体幹 ①	頭頸部の徒手筋力検査法演習 ①
4	筋力検査の概論	①筋力の概念 ②各種筋力検査について ③粗大筋力とは	19	徒手筋力検査法 頭頸部・体幹 ②	頭頸部の徒手筋力検査法演習 ② 体幹の徒手筋力検査法演習 ①
5	徒手筋力検査法 概論	①徒手筋力検査法とは ②段階付けと検査の流れについて	20	徒手筋力検査法 頭頸部・体幹 ③	体幹の徒手筋力検査法演習 ②
6	徒手筋力検査法 上肢 ①	肩関節の徒手筋力検査法演習 ①	21	徒手筋力検査法 その他 ①	手指、顔面の徒手筋力検査法演習 ①
7	徒手筋力検査法 上肢 ②	肩関節の徒手筋力検査法演習 ②	22	徒手筋力検査法 その他 ②	手指、顔面の徒手筋力検査法演習 ②
8	徒手筋力検査法 上肢 ③	肘関節、前腕、手関節の徒手筋力検査法演習 ①	23	知覚検査 ①	知覚の概念 知覚検査(表在感覚検査)の方法
9	徒手筋力検査法 上肢 ④	肘関節、前腕、手関節の徒手筋力検査法演習 ②	24	知覚検査 ②	知覚検査(表在感覚検査)の方法と演習
10	徒手筋力検査法 上肢 ⑤	肘関節、前腕、手関節の徒手筋力検査法演習 ③	25	知覚検査 ③	知覚検査(表在感覚検査)演習
11	徒手筋力検査法 下肢 ①	股関節の徒手筋力検査法演習 ①	26	知覚検査 ④	知覚検査(深部感覚検査)の方法と演習
12	徒手筋力検査法 下肢 ②	股関節の徒手筋力検査法演習 ②	27	理学療法評価の概要 ①	疼痛検査、知覚検査、徒手筋力検査法の位置づけ
13	徒手筋力検査法 下肢 ③	膝関節の徒手筋力検査法演習	28	理学療法評価の概要 ②	疼痛検査、知覚検査、徒手筋力検査法における結果の解釈と統合
14	徒手筋力検査法 下肢 ④	足関節・足部の徒手筋力検査法演習 ①	29	理学療法評価の概要 ③	疼痛検査、知覚検査、徒手筋力検査法における結果の解釈と統合
15	徒手筋力検査法 下肢 ⑤	足関節・足部の徒手筋力検査法演習 ②	30	理学療法評価の概要 ④	徒手筋力検査法（上肢等）、疼痛検査、知覚検査のまとめ

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	新・徒手筋力検査法　第10版	Helen　J.Hislop	協同医書	2020年
	理学療法評価学　改訂第6版	松澤 正、江口 勝正	金原出版	2016年
参考 図書等	運動のための機能解剖学的触診技術上肢・下肢　第２版	林典雄	メディカルビュー	2012年
	ベッドサイドの神経の診かた	田崎義昭	南山堂	2016年
	四肢と脊柱の診かた	S.Hoppenfeld(著)、野島元雄(訳)	医歯薬出版	1984年
	基礎運動学　第6版　改訂	中村隆一	医歯薬出版	2003年

授業 方法	演習および講義 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の 注意	実技演習が主体となります。積極的に行動し、習得に努めて下さい。		

講義科目	基礎評価学演習Ⅲ					
担当講師	松本 芳和				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	基礎評価学演習Ⅰ、基礎評価学演習Ⅱにて学習した内容を踏まえ、理学療法が対象となる各疾患に特異的な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）	№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	中枢神経系疾患の評価総論	中枢神経系疾患の評価の意義・目的 中枢神経系疾患のリスク管理 中枢神経系疾患の画像評価	16	股関節疾患の評価 ②	股関節疾患の評価について 股関節の整形外科テスト
2	意識・認知機能の評価	意識レベルとは、JCS・GCSの検査法 認知とは、HDS-R、MMSEの検査	17	膝関節疾患の評価 ①	膝関節疾患の評価について 膝関節の整形外科テスト
3	脳神経検査 ①	脳神経の役割	18	膝関節疾患の評価 ②	膝関節疾患の評価について 膝関節の整形外科テスト
4	脳神経検査 ②	脳神経検査の意義・方法・実技	19	足関節疾患の評価	足関節疾患の評価について 足関節の整形外科テスト
5	脳神経検査 ③	脳神経検査の意義・方法・実技	20	脊椎疾患の評価①	脊椎疾患の評価について 脊椎疾患の整形外科テスト
6	筋緊張検査 ①	筋緊張とは 評価の意義 Modified Ashworth Scale 深部腱反射との関連性	21	脊椎疾患の評価②	脊椎疾患の評価について 脊椎疾患の整形外科テスト
7	筋緊張検査 ②	筋緊張検査の方法と記載法	22	上肢疾患の評価 ①	上肢疾患の評価について 上肢の整形外科テスト
8	協調性検査 ①	協調性検査の種類、実技	23	上肢疾患の評価 ②	上肢の整形外科テスト
9	協調性検査 ②	協調性検査の種類、実技	24	その他の評価	まとめ、復習
10	片麻痺機能検査 ①	Brunnstrom stage test（上肢）	25	姿勢制御とバランス反応	姿勢の制御について バランス反応とは
11	片麻痺機能検査 ②	Brunnstrom stage test （手指・下肢）	26	姿勢反射・反応	①外乱に対する反射・反応 ②リーチ動作時の反射・反応
12	片麻痺機能検査 ③	12段階式片麻痺機能テスト SIAS(Stroke Impairment Assessment Set)	27	バランス評価 ①	バランス評価とは
13	片麻痺機能検査 ④	SIAS(Stroke Impairment Assessment Set) 脳卒中に関する評価	28	バランス評価 ②	FRT(Functional Reach Test)およびTUG(Timed Up to Go)の原理と方法、臨床的意義
14	骨関節系疾患の評価総論	評価の意義・目的 リスク管理 骨関節系疾患の画像評価	29	バランス評価 ③	BBS(Berg Balance Scale)の原理と方法、臨床的意義
15	股関節疾患の評価 ①	股関節疾患の評価について 股関節の整形外科テスト	30	歩行評価	歩行評価とは 10m歩行

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	理学療法評価学 改訂第6版 脳卒中の機能評価 SIASとFIM（基礎編）	松澤正 千野 直一	金原出版 金原出版	2018年 2019年
参考図書等	ベッドサイドの神経の診かた	田崎義昭	南山堂	2016年

授業方法	演習および講義 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	演習中心の科目です。知識だけでなく、身体を動かして技術を獲得しましょう。 また、練習相手は固定ではなく色々な人とペアを組んで練習しましょう。		

講義科目	臨床評価学演習Ⅰ					
担当講師	安山 一郎・宮野 慎太郎・百代 貴子・古井 雅也				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	①　対象者に検査の説明を行い安全に検査を施行できる ②　対象者の状況に合わせた検査の方法を考えたうえで、練習に取り組むことができる ③　検査器具・記録用紙などの準備・片付け、管理を行える ④　基礎評価学演習で学修した検査測定について、健常者に施行できるレベルの技術を習得する					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	オリエンテーション	評価における検査測定の意義を理解し、説明できる 検査測定に必要な準備や練習方法を具体的に説明できる
2	学生としての基本的な姿勢	実際の場面を想定し、それぞれについて適切な内容・方法が実践できる ～身だしなみ、挨拶と自己紹介、対象者との距離や話しかけ方、環境の設定・準備～
3	検査の目的と対象者への説明	検査の目的を理解したうえで対象者に説明を行うことができる 検査時のリスク、対象者の身体の触り方、検査の肢位などの注意点を具体的に挙げ、確認することができる
4	検査：バイタルサイン　（実技練習）	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：バイタルサイン（脈拍・血圧測定の方法、検査器具の使用方法、記録の実際）
5	検査：バイタルサイン　（実技テスト）	対象者にバイタルサインの確認（脈拍・血圧測定）を行うことができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
6	検査：バイタルサイン　（実技テスト）	対象者にバイタルサインの確認（脈拍・血圧測定）を行うことができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
7	検査：形態測定　（実技練習）	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：形態測定（四肢長と周径の測定方法、検査器具の取り扱いと記録の実際）
8	検査：形態測定　（実技テスト）	対象者に形態測定（四肢長と周径の測定）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
9	検査：形態測定　（実技テスト）	対象者に形態測定（四肢長と周径の測定）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
10	検査：形態測定　（実技テスト）	対象者に形態測定（四肢長と周径の測定）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
11	検査：関節可動域測定　（実技練習）	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：関節可動域測定（上肢の各関節の計測、検査器具の取り扱いと記録の実際）
12	検査：関節可動域測定　（実技テスト）	対象者に関節可動域測定（上肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
13	検査：関節可動域測定　（実技テスト）	対象者に関節可動域測定（上肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
14	検査：関節可動域測定　（実技テスト）	対象者に関節可動域測定（上肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
15	まとめ	それぞれの検査におけるチェックポイントを理解し、自己の課題を明らかにすることができる 継続的に実技練習への取り組みを行うよう意識することができる

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	理学療法評価学	松澤正、江口勝彦	金原出版	2022年
参考図書等	臨床技能とOSCE　コミュニケーションと介助・検査測定編	才藤栄一	金原出版株式会社	2019年
	PTOTのための評価測定　形態計測・感覚検査・反射検査	福田修	三輪書店	2014年
	PTOTのための評価測定　ROM測定	福田修	三輪書店	2010年

授業方法	演習・グループワーク 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	実技試験（40%）、提出課題（30%）、学修態度（30%）を総合的に判断し、評価を行う
履修上の注意	安全に配慮し、対象者に最小限の負担となるよう検査・測定を行うための手順と必要な基礎知識を実技を交えて学ぶ。授業時間内で検査技術の修得と実技テストの合格を目標とする。		

講義科目	臨床評価学演習Ⅱ					
担当講師	安山 一郎・新垣 工・森 政人				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	①　対象者に検査の説明を行い安全に検査を施行できる ②　対象者の状況に合わせた検査の方法を考えたうえで、練習に取り組むことができる ③　検査器具・記録用紙などの準備・片付け、管理を行える ④　基礎評価学演習で学修した検査測定について、健常者に施行できるレベルの技術を習得する					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	検査：関節可動域測定（実技練習）	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：関節可動域測定（下肢の各関節の測定、検査器具の取り扱いと記録の実際）
2	検査：関節可動域測定（実技テスト）	対象者に関節可動域測定（下肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
3	検査：関節可動域測定（実技テスト）	対象者に関節可動域測定（下肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
4	検査：関節可動域測定（実技テスト）	対象者に関節可動域測定（下肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
5	検査：関節可動域測定（実技練習）	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：関節可動域測定（手指・肩甲帯の各関節の測定、検査器具の取り扱いと記録の実際）
6	検査：関節可動域測定（実技テスト）	対象者に関節可動域測定（手指・肩甲帯）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
7	検査：関節可動域測定（実技テスト）	対象者に関節可動域測定（手指・肩甲帯）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
8	検査：MMT（実技練習）	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：徒手筋力検査法（下肢・頸部・体幹の測定、記録の実際）
9	検査：MMT（実技テスト）	対象者に徒手筋力検査法（下肢・頸部・体幹）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
10	検査：MMT（実技テスト）	対象者に徒手筋力検査法（下肢・頸部・体幹）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
11	検査：MMT（実技練習）	実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：徒手筋力検査法（上肢・手指の測定、記録の実際）
12	検査：MMT（実技テスト）	対象者に徒手筋力検査法（上肢・手指）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
13	検査：MMT（実技テスト）	対象者に徒手筋力検査法（上肢・手指）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
14	検査：MMT（実技テスト）	対象者に徒手筋力検査法（上肢・手指）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる
15	まとめ	それぞれの検査におけるチェックポイントを理解し、自己の課題を明らかにすることができる 継続的に実技練習への取り組みを行うよう意識することができる

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	理学療法評価学　改訂第6版	松澤正、江口勝彦	金原出版	2016年
	新・徒手筋力検査法　第10版	Helen　J.Hislop	協同医書出版社	2020年
参考図書等	臨床技能とOSCE　コミュニケーションと介助・検査測定編	才藤栄一	金原出版株式会社	2019年
	PTOTのための評価測定３　MMT　第２版	伊藤俊一	三輪書店	2016年
	PTOTのための評価測定４　MMT　第２版	伊藤俊一	三輪書店	2016年

授業方法	演習・グループワーク 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	実技試験（40%）、提出課題（40%）、提出物（20%）を総合的に判断し、評価を行う
履修上の注意	安全に配慮し、対象者に最小限の負担となるよう検査・測定を行うための手順と必要な基礎知識を実技を交えて学ぶ。授業時間内で検査技術の修得と実技テストの合格を目標とする。		

講義科目	運動療法学演習					
担当講師	井上 祥教				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科　１年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	運動療法における運動療法学の歴史および位置づけを認識し、基本的運動療法について、方法、適応、禁忌およびリスク管理を理解し、安全で効果的に実施できることを目標とする。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）	№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	運動療法総論	①運動療法の定義、歴史を理解する。②運動療法の目的、効果、リスク管理を理解する。	16	体力の改善 演習②	①全身持久力改善の方法を理解する。
2	痛みの軽減と　除去	①痛みの分類・評価を理解する。 ②痛みに対する運動療法を実施できる。	17	体力の改善 演習③	①運動負荷試験を体験する。 ②運動処方(頻度・強度・種類・時間)を理解し、体験する。
3	関節可動域の　改善①	①関節の形態と機能、関節可動域制限因子を理解する。②関節可動域運動の目的と種類を理解する。	18	体力の改善 演習④	①運動負荷試験を体験する。 ②運動処方(頻度・強度・種類・時間)を理解できる。
4	関節可動域運動　演習②(上肢)	①肩甲帯・肩・肘・手指の関節可動域運動の方法を理解する。②それら関節可動域運動を実施できる。	19	協調性改善	①協調性障害を理解する。 ②協調性障害の運動療法を理解できる。
5	関節可動域運動　演習③（体幹）	①頸部・胸郭・胸腰部の関節可動域運動の方法を理解する。②それら関節可動域運動を実施できる。	20	バランスの改善	①バランス障害を理解する。 ②バランス障害の運動療法を理解できる。
6	関節可動域運動　演習④（下肢）	①股・膝・足の関節可動域運動の方法を理解する。②それら関節可動域運動を実施できる。	21	基本動作の獲得・改善①	①基本動作を理解する。 ②基本動作の観察・視点を理解する。
7	ストレッチング理論①	①ストレッチの原理、効果、種類を理解する。	22	基本動作の獲得・改善②	①基本動作に対する運動療法の方法を理解する。
8	ストレッチング演習②（上肢）	①肩甲帯・肩・肘・手指のスタティックストレッチを実施できる。②それらのセルフストレッチングを実施できる。	23	歩行動作の獲得・改善①	①歩行動作を理解する。 ②歩行動作の観察・視点を理解する。
9	ストレッチング演習③（体幹）	①頸部・胸郭・胸腰部のスタティックストレッチを実施できる。②それらのセルフストレッチングを実施できる。	24	歩行動作の獲得・改善②	①歩行動作に対する運動療法の方法を理解する。
10	ストレッチング演習④（下肢）	①股・膝・足のスタティックストレッチを実施できる。②それらのセルフストレッチングを実施できる。	25	中枢神経系障害の運動療法	①中枢神経系障害の障害を理解する。②中枢神経系障害の運動療法の概要を知る。
11	筋力の改善 理論①	①運動単位と筋線維型を理解する。 ②筋の肥大と萎縮を理解する。 ③筋力の低下、疲労を理解する。	26	骨関節系障害の運動療法	①骨関節系障害の障害を理解する。②骨関節系障害の運動療法の概要を知る。
12	筋力の改善 理論②	①筋持久力について理解する。 ②過負荷・特異性の原理を理解する。 ③筋力トレーニングの特異性を理解する。	27	内部系障害の運動療法	①内部系障害の障害を理解する。②内部系障害の運動療法の概要を知る。
13	筋力の改善演習演習③（上肢）	①上肢の筋力改善プログラムを立案できる。②それら漸増抵抗運動を実施できる。	28	高齢者と理学療法および廃用症候群に対する運動療法	①高齢者の特徴を理解する。②廃用性症候群の症状を理解する。③上記に対する運動療法の概要を知る。
14	筋力の改善演習演習④（下肢）	①下肢の筋力改善プログラムを立案できる。②それら漸増抵抗運動を実施できる。	29	運動学習 及び臨床的応用	①運動学習の影響因子を理解する。②運動学習の臨床的応用を理解する。
15	体力の改善 理論①	①体力の定義を理解する。 ②全身持久力ついて理解する。 ③無酸素性作業域値について理解する。	30	まとめ	各々の運動療法における要点について理解する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	運動療法学　改訂2版	柳澤健	金原出版	2011年
参考 図書等	指定しない。			

授業 方法	講義と演習【実技】 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	理学療法（士）の基礎となる重要な科目です。予習・復習を欠かさず、講義・演習（実技）に真剣に臨みましょう。		

講義科目	物理療法学					
担当講師	鈴木 智裕				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　１年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	種々の物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌および実施の手順について理解する。 症状に応じた物理療法を選択できる。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	物理療法総論・炎症	理学療法における物理療法の位置づけとその定義を理解する。 炎症および組織修復の定義、機序について理解する。 炎症および組織修復に対する物理療法の考え方を理解する。
2	痛み・温熱療法概論	痛みの定義、機序について理解する。 痛みに対する物理療法の考え方を理解する。 温熱療法の物理的特性、分類、生理学的作用を理解する。
3	温熱療法各論①	ホットパック、パラフィンの特徴、生理学的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。
4	温熱療法各論②	極超短波の特徴、生理学的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。
5	温熱療法各論③	超音波の特徴、生理学的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。
6	温熱療法各論④	超音波の特徴、生理学的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。
7	温熱療法演習	ホットパック、パラフィン、極超短波、超音波を実施できる。
8	寒冷療法概論・各論	寒冷療法の物理的特性、分類、生理学的作用を理解する。 アイスパック、クリッカーの特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。
9	光線療法概論・各論	光線療法の物理的特性、分類、生理学的作用を理解する。 赤外線・レーザーの特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。
10	水治療法概論・各論	水治療法の物理的特性、分類、生理学的作用を理解する。 渦流浴、プール浴、交代浴の特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。
11	寒冷・光線・水治療法演習	アイスパック、クリッカーを実施できる。 赤外線療法を実施できる。 渦流浴を実施できる。プール浴を理解する。
12	電気療法概論・各論①	電気刺激療法の物理的特性、分類、生理学的作用を理解する。 電気刺激によるバイオフィードバック療法を理解する。
13	電気療法各論②	治療的電気刺激療法（TES）、神経・筋電気刺激療法（NMES）、経皮的末梢神経電気刺激療法（TENS）、干渉波電気刺激療法（IFCS）、機能的電気刺激療法（FES）の特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。
14	牽引療法概論・各論	牽引療法の物理的特性、分類、生理学的作用を理解する。 頸椎牽引、腰椎牽引の特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。
15	電気刺激・牽引療法演習・まとめ	TES、NMES、TENS、IFCS、FES電気刺激療法を実施できる。 頸椎牽引、腰椎牽引を実施できる。 各々の物理療法の要点を理解する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	理学療法テキスト　Ⅸ　物理療法　第2版	千住秀明	神陵文庫	2009年
参考図書等	理学療法士のための物理療法臨床判断ガイドブック ゴールドマスターテキスト３　物理療法学	木村貞治 柳澤健	文光堂 MEDICAL VIEW	2007年 2009年

授業方法	講義と演習形式にて実施 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	物理療法機器の取り扱いは実習着の着用必須		

講義科目	日常生活活動学演習Ⅰ					
担当講師	東 健太郎				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	日常生活の基本として遂行される動作を取り上げ、それらの動作遂行に必要な条件を解説するとともに、ADL障害に対して動作の支援、援助方法を理解し実践する。 self careの概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。 障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	ADLの概念と範囲	ADLの概念や範囲を理解する。ADLとQOLの関係を理解する。
2	日常生活活動の運動学①	静的基本動作の定義・分類を理解し実際の動作と結びつける。
3	日常生活活動の運動学②	動的基本動作の定義・分類を理解し実際の動作と結びつける。
4	起居・移乗動作について①	重心や支持基底面の関係が動作に与える影響を理解し、動作支援におけるポイントを理解する。
5	起居・移乗動作について②	寝返りを構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。寝返り動作を支援するポイントを理解する。
6	起居・移乗動作について③	起き上がりを構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。起き上がり動作を支援するポイントを理解する。
7	起居・移乗動作について④	立ち上がりを構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。立ち上がり動作を支援するポイントを理解する。
8	起居・移乗動作について⑤	移乗を構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。移乗動作を支援するポイントを理解する。
9	self careについて①	食事・整容動作の意義・構成する動作を理解し、必要な要素や指導の要点を理解する。
10	self careについて②	排泄動作の意義・構成する動作を理解し、必要な要素や指導の要点を理解する。
11	self careについて③	更衣、入浴動作の意義・構成する動作を理解し、必要な要素や指導の要点を理解する。
12	移動補助具について（杖）①	杖の構造・特徴・種類を理解し、実際に杖の処方ができる。
13	移動補助具について（杖）②	演習を通して杖歩行パターン・応用杖動作など障害に応じた指導ができる。
14	移動補助具について（松葉杖）③	松葉杖の構造・特徴・種類を理解し、実際に松葉杖の処方ができる。 演習を通して松葉杖歩行パターン・応用松葉杖動作など障害に応じた指導ができる。
15	移動補助具について（歩行器）④	歩行器の構造・特徴・種類を理解し、実際に歩行器・歩行車の処方を行い障害に応じた指導ができる。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	理学療法学テキスト　Ⅴ　日常生活活動（ADL）　第2版	千住秀明	神陵文庫	2015年
参考図書等	新版　日常生活活動（ADL)－評価と支援の実際－	伊藤利之、江藤文夫	医歯薬出版	2010年
	動作分析臨床活用講座-バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践-	石井慎一郎	MEDICAL VIEW	2013年

授業方法	講義および演習 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	演習が中心の講義です。自身の身体を使い理解を深めて下さい。		

講義科目	日常生活活動学演習Ⅱ					
担当講師	東 健太郎				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。 self careの概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。 ADL評価の意義および検査方法を理解する					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	移動補助具について（車椅子）①	車椅子の構造・特徴・種類を理解し、実際に車椅子の処方を行い障害に応じた指導ができる。 体圧分散の機器を必要に応じて使用することができる。
2	移動補助具について（車椅子）②	演習を通して車椅子の処方を行い障害に応じた指導ができる。
3	移動補助具について（車椅子）③	演習を通して障害に応じた車椅子介助ができる
4	日常生活活動の評価①	ADL評価の目的を理解する。できるADLとしているADLについて理解する。実用性とは何かを説明できる。代表的なADL評価の数量化方式のADL評価と実行可能なADL評価の特徴を説明できる。
5	日常生活活動の評価②	代表的なADL評価の動作を細分化し、手順ごとに評価する方式と一定条件下でのADL動作能力、その他、IADL評価の特徴を説明できる。
6	日常生活活動の評価③	QOLの各種評価法、ICFの分類と評価点の特徴を説明できる。
7	日常生活活動の評価④	Barthel indexの概要・使用方法を理解し、採点を体験する。
8	日常生活活動の評価⑤	FIMの概要・使用方法を理解し、代表的な評定尺度を説明できる。 FIMの認知項目の評定尺度を理解し、採点を体験する。
9	日常生活活動の評価⑥	FIMの運動項目の評定尺度を理解し、採点を体験する。
10	日常生活活動の評価⑦	FIMの症例検討
11	日常生活活動の評価⑧	移動動作のADL指導および評価上の注意点を代表的な疾患を通して理解する。
12	日常生活活動の評価⑨	身の回り動作のADL指導および評価上の注意点を代表的な疾患を通して理解する。
13	日常生活活動の評価⑩	コミュニケーション障害・社会的認知項目について評価上の注意点を代表的な疾患を通して理解する。
14	福祉機器について	リフト・特殊寝台・自助具などの構造・特徴・種類を理解し、障害に応じた指導ができる。
15	日常生活活動　総括	学習の習熟度の合わせて不足部分を補う。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	日常生活活動（ADL)第2版 脳卒中の機能評価SIASとFIM(基礎編)	千住秀明 千野直一	神陵文庫 金原出版	20015年 2019年
参考図書等	新イラストによる安全な動作介助のてびき第3版	飛松好子	医歯薬出版	2016年

授業方法	講義および演習 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	日常で行っている各動作が、どのような要素で成り立っているか、各自の日常生活を振り返りながら学習してください。		

講義科目	義肢学					
担当講師	吉廣 伸隆				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	義肢学では、切断患者のリハビリテーションの流れを理解するために、切断の原因、義肢の種類、義肢の適合および判定、そして装着訓練・管理方法を学ぶ。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	切断と義肢の基礎知識①	①切断･離断とは　②義肢　③骨格・殻構造 ④切断高位　⑤上肢下肢の切断原因･発生率　⑥切断術と処理について理解する
2	切断と義肢の基礎知識②	①切断術後のリハビリテーションの流れ　②術後管理 ③ベンチ・スタティック・ダイナミックアライメントの意義について理解する
3	大腿切断①	①大腿義足ソケットの種類と特徴　②膝継手の立脚相制御 ③膝継手の遊脚相制御について理解する
4	大腿切断②	①膝離断の特徴・ソケット　②膝継手の種類・特徴 ③足継手の種類と特徴　④大腿義足のベンチアライメントについて理解する
5	大腿切断③・膝関節離断	①大腿義足のスタティック･ダイナミックアライメント ②異常姿勢・異常歩行　③膝離断用義足のアライメントについて理解する
6	大腿切断の異常歩行	①異常姿勢・異常歩行について理解する
7	下腿切断	①下腿義足ソケットの種類と特徴　②下腿義足のアライメント ③異常姿勢・異常歩行について理解する
8	サイム切断	①サイム義足ソケットの種類と特徴　②サイム義足のアライメントについて理解する
9	片側骨盤切断・股関節離断①	①股義足の種類と特徴　②片側骨盤切除用義足の特徴 ③股継手の種類と特徴について理解する
10	股関節離断②・足部切断	①股義足のアライメント ②足部切断の種類　③足部部分義足の種類・特徴について理解する
11	下肢切断のリハビリテーション	①下肢切断に対する評価項目と意義　②義足装着前理学療法項目と意義 ③切断原因疾患別にみた理学療法上の留意点について理解する
12	断端の合併症	①幻肢･幻肢痛･神経腫　②幻肢･幻肢痛･神経腫に対する理学療法 ③切断高位で好発する拘縮　④拘縮予防の理学療法について理解する
13	下肢切断のリハビリテーション	①義足装着理学療法項目と意義　②歩行練習の流れ　③荷重練習の重要性　④応用歩行　⑤起居動作練習ついて理解する
14	上肢切断の特徴とリハビリテーション	①義手の機能的分類　②手先具の種類と特徴 ③上肢切断に対する評価項目と意義　④上肢切断に対する理学療法と意義について理解する
15	まとめ	①大腿切断の異常姿勢・異常歩行　②下腿切断の異常姿勢・異常歩行 ③上肢切断についてについて理解する

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	切断と義肢	澤村誠志	医歯薬出版	2019年
参考図書等	15レクチャーシリーズ　義肢学	石川朗	中山書店	2011年

授業方法	講義及び実習 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	自分がもし四肢を失い義肢を装着したらどうなるか、ということをいつも想像しながら運動機能学・解剖学の知識を利用しながら学習して下さい。		

講義科目	装具学					
担当講師	吉廣 伸隆				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	装具学では、装具の種類、適応、そして適合を学び、更に対象者の運動能力や機能を理解した上で、必要な装具を選択できることを目標とする。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	装具学総論	装具療法の目的や分類について理解する。 3点固定の原理と装具作製の流れにについて理解する。 保険制度について理解する。
2	下肢装具総論 短下肢装具(1)	下肢装具の分類と構成要素について理解する。 金属支柱付短下肢装具の構成要素について理解する。
3	短下肢装具(2)	金属支柱付短下肢装具に用いられる足継手の種類･機能について理解する。 足継手機能に対する適応例(疾患･症状)について理解する。
4	短下肢装具(3)	プラスチック短下肢装具の構成要素について理解する。 プラスチック短下肢装具の種類と適応について理解する。
5	長下肢装具(1)	長下肢装具の基本的構造要素と種類について理解する。 長下肢装具に用いられる膝継手の種類･機能について理解する。
6	長下肢装具(2) 免荷装具	長下肢装具の使用目的･効果について理解する。 PTB免荷装具の構造･機能･適応について理解する。 坐骨支持免荷装具の構造･機能･適応について理解する。
7	股装具 膝装具	股装具の種類･構造･機能とその対象疾患について理解する。 膝装具の種類･構造･機能とその対象疾患について理解する。
8	下肢装具のチェックアウト	下肢装具の適合を評価するために、チェックアウト項目とその方法を理解する。装具を装着し歩行など体験する。
9	靴型装具と足底装具(1)	靴型装具を用いた理学療法が出来る様になるために、目的、基本的な構造や機能、各種補正について理解する。
10	靴型装具と足底装具(2)	靴型装具を用いた理学療法が出来る様になるために、目的、基本的な構造や機能、各種補正について理解する。
11	対麻痺用装具･ペルテス病用装具 先天性内反足用装具 先天性股関節脱臼用装具	小児疾患の病態と装具の関係性を理解する。
12	体幹装具，側彎症装具(1)	体幹装具・側彎症装具それぞれの目的や対象疾患、基本的な構造や機能、種類について理解する。
13	体幹装具，側彎症装具(2)	体幹装具・側彎症装具それぞれの目的や対象疾患、基本的な構造や機能、種類について理解する。
14	上肢装具(1)	上肢装具の分類と目的、適応疾患、種類、基本的な構造・機能を理解する。
15	上肢装具(2)	上肢装具の分類と目的、適応疾患、種類、基本的な構造・機能を理解する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	装具学　第4版	飛松好子、高嶋孝倫	医歯薬出版	2013年
参考図書等	15レクチャーシリーズ　理学療法テキスト　装具学	石川朗、佐竹將宏	中山書店	2013年

授業方法	講義及び実習 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	実際の装具を手にし、授業の内容と照し合わせ、装具の目的を理解できる様になる。障害に応じた装具の選択肢を想起出来るようになるため、知識と想像力を深めてもらう。		

講義科目	中枢神経疾患の理学療法学Ⅰ					
担当講師	中﨑 満				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	脳血管障害、脳腫瘍の発生機序と障害像を把握した上で、片麻痺に対する理学療法を理解する。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）	№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	中枢神経系障害の理学療法総論	脳の可塑性と運動療法、基本的な機能予後・回復過程について理解する。	16	急性期の理学療法	急性期理学療法の実際について理解する。
2	中枢神経系障害の基礎解剖①	中枢神経の構造と機能、大脳皮質の構造と機能について理解する。	17	回復期の理学療法	回復期の特徴を踏まえ、リスク管理、評価、目標設定について理解する
3	中枢神経系障害の基礎解剖②	辺縁系・基底核の構造と機能について理解する。	18	回復期の理学療法	回復期理学療法の実際について理解する。
4	中枢神経系障害の基礎解剖③	間脳・脳幹・小脳の構造と機能について理解する。	19	維持期・在宅期の理学療法	維持・在宅期の特徴を踏まえ、リスク管理、評価、目標設定について理解する
5	中枢神経系障害の基礎解剖④	脳血管・脳脊髄液について理解する。	20	維持期・在宅期の理学療法	維持・在宅期理学療法の実際について理解する。
6	中枢神経系障害の基礎解剖⑤	伝導路（上行路と下行路）の構造と機能について理解する。	21	中枢神経系障害の理学療法について	急性期・回復期・維持期の理学療法の違いについて理解する
7	脳梗塞の病態	脳梗塞の概要、分類（機序・臨床病型・病変部位からの分類）について理解する。	22	中枢神経系障害のＡＤＬ指導	理学療法を理解する。（臥位姿勢・寝返り動作・起き上がり動作・床上動作）
8	脳出血の病態	脳出血の概要、各出血（被殻・視床・脳幹・小脳・皮質下出血）の病態について理解する。	23	中枢神経系障害のＡＤＬ指導	理学療法を理解する。（座位姿勢・立ち上がり動作・立位姿勢）
9	脳梗塞・脳出血の画像診断	脳梗塞・脳出血の画像診断について理解する。	24	中枢神経系障害のＡＤＬ指導	理学療法を理解する。（車椅子シーティング・移乗動作）
10	くも膜下出血の診断と治療	くも膜下出血の疫学、診断、検査、治療、3大合併症について理解する。	25	中枢神経系障害のＡＤＬ指導	理学療法を理解する。（歩行・階段昇降・応用歩行）
11	脳腫瘍の診断と治療	脳腫瘍の疫学、画像、診断、検査、治療について理解する。	26	中枢神経系障害のＡＤＬ指導	理学療法を理解する。（更衣動作・整容動作・排泄動作・入浴動作）
12	脳血管障害と脳腫瘍の病態まとめ	脳血管障害と脳腫瘍の病態についてまとめる。	27	中枢神経系障害のＡＤＬ指導	理学療法を理解する。（食事動作・嚥下障害）
13	中枢神経系障害の理学療法各論	脳卒中ガイドライン、ニューロリハビリテーション、ファシリテーションテクニックについて理解する。	28	その他の理学療法について	上肢機能障害、片麻痺の方に対する理学療法について理解する。
14	中枢神経系障害の理学療法各論	中枢神経系障害の評価を理解する。	29	その他の理学療法について	痙縮に対する理学療法、体力低下に対する理学療法について理解する。
15	急性期の理学療法	急性期の特徴を踏まえ、リスク管理、評価、目標設定について理解する。	30	ADL指導・その他の理学療法について	中枢神経系障害のADL指導および、その他の理学療法についてまとめる。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	病気が見える７（脳・神経） ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション	医療情報科学研究所 潮見泰藏	Medic Media 羊土社	2017年 2017年
参考図書等	脳卒中理学療法の理論と技術 ＰＴ・ＯＴのための画像のみかた	原寛美、吉尾雅春 山下敏彦	MEDICAL VIEW 金原出版	2013年 2016年

授業方法	講義および演習 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	脳血管障害の発生機序と障害像を理解するために、神経系の解剖をしっかり復習すること。		

講義科目	中枢神経疾患の理学療法学Ⅱ					
担当講師	中﨑 満				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	中枢系障害の理学療法学Ⅰにて学習した内容を踏まえ、高次脳機能障害そして、頭部外傷、神経難病の理学療法を理解する。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）	№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	高次脳機能障害の総論	高次脳機能障害の概要、診察の実際、神経心理学検査について	16	パーキンソン病の予後について薬物療法	パーキンソン病の薬物療法について理解する。パーキンソン病の評価について理解する。
2	高次脳機能障害の基礎知識	画像診断（脳葉の区分と溝・病巣）について	17	パーキンソン病の理学療法について	パーキンソン病の理学療法について理解する。
3	失語・失読・失書について	失語・失読・失書の概要、リハビリテーションについて理解する。	18	パーキンソン病のADL指導について	パーキンソン病の基本動作やADL指導および家族指導について理解する。
4	失行、行為・行動の障害について	失行、行為・行動の障害、リハビリテーションについて理解する。	19	運動失調症の病態について①	小脳、前庭系、脊髄の構造と機能特性、運動失調の分類、伝導路について理解する。
5	失認と関連症状について	失認と関連症状、リハビリテーションについて理解する。	20	運動失調症の病態について②	運動失調の症状の特徴について理解する（片麻痺との違い）。
6	半側空間無視について	半側空間無視の概要、評価、リハビリテーションについて理解する。	21	脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の病態について	脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の病態について理解する。目眩について理解する.
7	病態失認・Pusher症候群について	病態失認・Pusher症候群の概要、リハビリテーションについて理解する。	22	小脳性運動失調の評価について	小脳性運動失調の評価について理解する。
8	注意と注意障害について	注意の諸側面、臨床的検査、病巣、リハビリテーションについて理解する。	23	小脳性運動失調症の理学療法について	小脳性運動失調の理学療法について理解する。目眩の理学療法について理解する。
9	記憶障害、遂行機能障害について	記憶の分類、検査、病巣、リハビリテーションについて理解する。遂行機能障害の概要を理解する。	24	小脳性運動失調症のADL指導について	小脳性運動失調の基本動作やADL指導および家族指導について理解する。
10	認知症、せん妄について	認知症の概要、病型、リハビリテーションを理解する。	25	筋萎縮性側索硬化症の病態について	筋萎縮性側索硬化症の病態、進行の仕方、予後、症状について理解する。
11	頭部外傷の病態について	頭部外傷（頭蓋損傷、局所性脳損傷、びまん性軸索損傷）の病態について理解する。	26	筋萎縮性側索硬化症の理学療法について	筋萎縮性側索硬化症の障害像、評価、リスク管理、理学療法について理解する。
12	外傷性脳損傷による高次脳機能障害について	外傷性脳損傷による高次脳機能障害について理解する。	27	ギラン・バレー症候群の理学療法について	ギラン・バレー症候群の病態・評価、リスク管理、理学療法について理解する。
13	頭部外傷の理学療法について	頭部外傷の理学療法について理解する。	28	多発性硬化症の病態・理学療法について	多発性硬化症の病態、障害像、評価、リスク管理、理学療法、予後について理解する。
14	パーキンソン病の病態について	バーキンソン病の原因、病態生理、主症状を理解する。	29	その他の疾患について	重症筋無力症・多発性筋炎・多発性皮膚炎について理解する。
15	パーキンソン病の予後について	パーキンソン病のADLおよび予後と経過を理解する。 （Hoehn-Yahrの重症度分類）	30	まとめ	高次脳機能障害、神経難病、他の中枢系障害の理学療法学Ⅱをまとめる

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション	潮見泰藏	羊土社	2017年
	高次脳機能障害学　第2版	石合純夫	医歯薬出版	2012年
	病気が見える７（脳・神経）	医療情報科学研究所	Medic Media	2017年
参考図書等	標準理学療法学・作業療法学　神経内科学	川平和美	医学書院	2013年
	ＰＴ・ＯＴのための画像のみかた	山下敏彦	金原出版	2016年
	日常生活活動（ADL)第2版	千住秀明	神陵文庫	2007年

授業方法	講義および演習 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	覚えることが多いので、しっかり予習・復習すること。		

講義科目	運動器疾患の理学療法学Ⅰ					
担当講師	本宮 丈嗣				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	運動器障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な骨関節疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）	№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	骨関節　外傷総論	①骨折・脱臼・捻挫・靭帯損傷について理解する ②創傷及び褥瘡について理解する	16	変形性関節症①	変形性関節症の病態・症状・画像所見とリスク管理について理解する
2	高齢者と小児の骨折	①骨粗鬆症について理解する、②高齢者の身体特性と骨折の特徴を理解する、③サルコペニア・ロコモティブシンドローム・フレイルについて理解する、④小児の身体特性と骨折の特徴を理解する	17	下肢の整形外科疾患総論（膝関節）	膝関節の解剖学、運動学的特徴について理解する
3	下肢の整形外科疾患総論（股関節）	股関節解剖、股関節脱臼の特徴、骨盤骨折、病態把握、問題点、画像所見、治療・リスク管理を理解する。	18	膝関節疾患①	膝関節靭帯損傷の病態・症状・画像所見と治療法を理解する。
4	下肢の骨折①	大腿骨近位部骨折の特徴、病態把握、問題点、画像所見、治療・リスク管理、理学療法を理解する	19	膝関節疾患②	前十字靭帯と後十字靭帯再建術後の理学療法を理解する
5	下肢の骨折②	大腿骨骨幹部骨折、大腿骨遠位部骨折の特徴、病態把握、問題点、画像所見、治療・リスク管理、理学療法を理解する	20	膝関節疾患③	半月板損傷の病態・症状・画像所見と治療法、理学療法を理解する。
6	下肢の骨折③	①膝関節解剖を理解する。 ②膝蓋骨骨折、脛骨近位部骨折・骨幹部骨折の特徴、病態把握、問題点、画像所見、治療・リスク管理、理学療法を理解する	21	スポーツ傷害①	①スポーツ外傷・障害の病態を理解する ②スポーツ外傷・障害の理学療法を理解する
7	下肢の骨折④	①足関節解剖を理解する。 ②足関節天蓋骨折、足関節果部骨折、踵骨骨折、距骨骨折の特徴、病態把握、問題点、画像所見、治療・リスク管理、理学療法を理解する	22	スポーツ傷害②	テーピング（膝・足関節）の目的・効果を理解する
8	上肢の骨折①	①肩関節解剖を理解する。 ②鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼の特徴、病態把握、問題点、画像所見、治療・リスク管理、理学療法を理解する	23	変形性関節症（膝関節①）	変形性膝関節症の保存的治療と理学療法を理解する
9	上肢の骨折②	上腕骨近位部骨折、上腕骨骨幹部骨折・遠位部骨折（顆上骨折含むの特徴、病態把握、問題点、画像所見、治療・リスク管理、理学療法を理解する	24	変形性関節症（膝関節②）	人工膝関節置換術後の理学療法とADL指導を理解する
10	上肢の骨折③	①肘関節解剖を理解する。 ②肘関節脱臼、前腕近位部骨折（肘頭骨折、橈骨頭骨折）の特徴、病態把握、問題点、画像所見、治療・リスク管理、理学療法を理解する	25	変形性関節症（股関節①）	変形性股関節症の保存的治療と理学療法を理解する
11	上肢の骨折④	前腕骨幹部骨折（モンテジア、ガレアッチ含む）、橈骨遠位端骨折の特徴、病態把握、問題点、画像所見、治療・リスク管理、理学療法を理解する	26	変形性関節症（股関節②）	人工股関節置換術後の理学療法を理解する
12	上肢の骨折⑤	舟状骨骨折、ベネット骨折、ボクサー骨折の特徴、病態把握、問題点、画像所見、治療・リスク管理、理学療法を理解する	27	変形性関節症（股関節③）	人工股関節置換術後の理学療法とADL指導を理解する
13	肩関節疾患①	①肩関節の構造と機能を理解する ②肩関節の障害を理解する	28	下肢の整形外科疾患総論（足関節）	足関節の解剖学、運動学的特徴について理解する
14	肩関節疾患②	①肩関節周囲炎の病態を把握する。 ②肩関節不安定症の病態を把握する。 ③腱板損傷の病態を把握する。	29	足関節疾患	アキレス腱損傷　足関節捻挫の病態・症状と治療法・理学療法について理解する
15	肩関節疾患③	①肩関節疾患の評価を理解する ②肩関節疾患の理学療法ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを理解する	30	骨端症	骨壊死の分類について理解する。 骨壊死の疫学特徴について理解する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	整形外科ビジュアルリハビリテーション	稲川利光	学研メディカル秀潤社	2021年
参考図書等	ＰＴ・ＯＴのための画像のみかた 標準整形外科学	山下敏彦 松野丈夫	金原出版 医学書院	2016年 2014年

授業方法	講義および実技を用いたグループワークを行う 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	解剖学、運動学の基礎知識の復習を行い、受講することが望ましい。		

講義科目	運動器疾患の理学療法学Ⅱ					
担当講師	本宮 丈嗣				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	骨関節障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な骨関節疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）	№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	疼痛疾患	①疼痛のメカニズム、急性痛・慢性痛・がん性疼痛を理解する。 ②評価と理学療法を理解する。③CRPSの病態と分類を理解する。	16	脊椎疾患⑥	①腰椎疾患の評価を理解する ②腰椎疾患の理学療法ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを理解する
2	関節リウマチ①	関節リウマチの病態・画像所見や症状特徴的な変形を理解する	17	脊椎疾患術後の理学療法	①術後の理学療法を理解する
3	関節リウマチ②	関節リウマチの診断基準や評価を理解する	18	腰痛疾患の理学療法	①理学療法を実際に体験する ②ADL指導を理解する
4	関節リウマチ③	関節リウマチの治療および理学療法を理解する	19	脊髄損傷①	①脊髄の解剖を理解する ②脊髄損傷の概論を理解する
5	関節リウマチ④	関節リウマチ患者のADL指導を理解する	20	脊髄損傷②	①完全損傷と不全損傷を理解する
6	末梢神経障害①	①末梢神経の構造と機能を理解する ②末梢神経障害の病態と分類を理解する	21	脊髄損傷③	①合併症を理解する
7	末梢神経障害②	腕神経叢および顔面神経の末梢神経障害を理解する。	22	脊髄損傷④	①評価（Frankel分類・Zancolliの分類・ASIA）を理解する
8	末梢神経障害③	上肢の末梢神経障害を理解する (橈骨神経、尺骨神経、正中神経麻痺)	23	脊髄損傷⑤	①頸髄損傷について理解する
9	末梢神経障害④	下肢の末梢神経障害を理解する (坐骨神経麻痺、大腿神経麻痺 脛骨神経麻痺、腓骨神経麻痺)	24	脊髄損傷⑥	①胸髄損傷について理解する ②腰髄損傷について理解する
10	末梢神経障害⑤	①末梢神経障害の評価を理解する ②末梢神経障害の理学療法ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを理解する	25	脊髄損傷⑦	①残存レベル別理学療法を理解する
11	脊椎疾患①	①脊椎の構造と機能を理解する ②脊髄の構造と機能を理解する ③脊髄神経の構造と機能を理解する	26	脊髄損傷⑧	①頸髄損傷者の理学療法を実際に体験する
12	脊椎疾患②	脊椎圧迫骨折、脊柱側弯症の病態、画像所見と理学療法を理解する	27	脊髄損傷⑨	①胸・腰髄損傷者の理学療法を実際に体験する
13	脊椎疾患③	頸椎症、頸椎椎間板ヘルニアの病態、画像所見と理学療法を理解する	28	脊髄損傷⑩	①ADL指導を理解する
14	脊椎疾患④	①頸椎疾患の評価を理解する ②頸椎疾患の理学療法ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを理解する	29	脊髄損傷⑪	①ADL指導を理解する
15	脊椎疾患⑤	腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症の病態、画像所見と理学療法を理解する	30	熱傷	①病態を理解する ②評価を理解する

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	整形外科ビジュアルリハビリテーション	稲川利光	学研メディカル秀潤社	2021年
	脊髄損傷の理学療法	武田功	医歯薬出版	2008年
参考図書等	ここがポイント　整形外科疾患の理学療法　改訂第2版	冨士武史	金原出版	2007年
	動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション	田中宏太佳、園田茂	医学書院	2010年
	標準整形外科学　第11版	内田淳正	医学書院	2011年

授業方法	講義、グループワーク、実技を交えて実施する 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	解剖学、運動学の基礎知識の復習を行い、受講することが望ましい。		

講義科目	内部障害系疾患の理学療法学Ⅰ					
担当講師	岡住 信介				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	代謝疾患および循環器疾患の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）	№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	内部障害の理学療法とは	①内部障害とは何かを理解する。 ②内部障害の理学療法における概要を知る。	16	虚血性心疾患の病態、診断、治療	①虚血性心疾患の概念、病態、分類、心電図所見、検査所見、診断、治療を理解する。
2	代謝と栄養	①栄養と代謝の概要を理解する。 ②糖質代謝とエネルギー産生を理解する。	17	心不全の病態、診断、治療	①心不全の概念、病態、分類、検査所見、診断、治療を理解する。
3	メタボリックシンドロームの理学療法 ①	①メタボリックシンドロームの定義、診断、治療を理解する。	18	心臓リハビリテーション総論	①心臓リハビリテーション目的と意義、流れを理解する。②一次救命処置の手技が行える。
4	メタボリックシンドロームの理学療法 ②	②メタボリックシンドロームの理学療法評価、理学療法介入を理解し、実践する。	19	循環器疾患の理学療法評価 ①	①診療録(カルテ)や記録から心機能に関連する情報を抽出できる。
5	糖尿病の病態、分類、診断、治療	①糖尿病(DM)の現状(疫学)、病態、分類、診断、治療を理解する。	20	循環器疾患の理学療法評価 ②	②検査所見から重症度と心機能推察(リスク層別化)ができる。③運動機能が評価できる。
6	糖尿病の合併症と治療	①DMの三大合併症を理解する。 ②DMの三大療法を理解する。	21	循環器疾患の理学療法評価 ③	④循環器疾患患者の理学療法評価を要約することができる。
7	糖尿病の理学療法 ①	①持久力増強運動のFITTの原則を理解する。 ②DMの理学療法評価を理解する。	22	循環器疾患の理学療法 ①	①循環器疾患患者に対する理学療法介入の要点を理解する。
8	糖尿病の理学療法 ②	③DMの理学療法を理解する。 ④DMのリスクを想定する。	23	循環器疾患の理学療法 ②	②リスク層別化に基づく、運動開始の判断、バイタルサインと生体反応の監視の要点を理解する。
9	循環器系の解剖学・生理学	①心臓の構造と機能を理解する。 ②循環の基礎事項を理解する。	24	循環器疾患の理学療法 ③	③不良反応が出現した際に適切な処置ができる。
10	運動耐容能とその評価 ①	①循環器系の調節機構、運動耐容の概要を理解する。 ②運動の循環反応を述べる。	25	大動脈疾患の病態と理学療法	①大動脈疾患の病態、診断、治療を理解する。②大動脈疾患の理学療法、リスクを理解する。
11	運動耐容能とその評価 ②	③運動耐容能を評価する。 ④運動処方の実際を理解する。	26	心臓弁膜疾患の病態と理学療法	①心臓弁膜疾患の病態、診断、治療を理解する。②心臓弁膜疾患の理学療法、リスクを理解する。
12	心電図の診かた ①	①心電図の基本波形を理解する。 ②心電図の記録法を理解する。	27	末梢動脈・静脈疾患、リンパ系疾患の病態と理学療法	①末梢動脈・静脈・リンパ系の代表的疾患（ASO・DVT・リンパ浮腫：子宮がん・乳がん）の病態と理学療法を理解する。
13	心電図の診かた ②	④モニター心電図を理解する。 ⑤ホルター心電図を理解する。 ⑥心電図と循環との関係を知る。	28	腎疾患の病態、検査	①腎疾患の病態、治療を理解する。
14	不整脈の診かた ①	①心房細動、心房粗動、心室細動、心室頻拍、期外収縮、房室ブロック、脚ブロックを理解する。	29	腎疾患の治療、理学療法	②腎疾患の理学療法、リスクを理解する。
15	不整脈の診かた ②	①WPW症候群、発作性上室頻拍、洞機能不全症候群、洞房ブロック、人工ペースメーカーを理解する。	30	循環・代謝機能障がい者に対する教育、まとめ	①循環・代謝障がい者に対する助言・教育を理解する。②循環・代謝障がいの理学療法をまとめる。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝	石川朗	中山書店	2010年
	内部障害理学療法テキスト 改定第3版	細田多穂	南江堂	2018年
参考図書等	病気が見える 循環器疾患	岡庭豊	MEDIC MEDIA	2010年
	フィジカルアセスメント徹底ガイド 循環	高橋仁美	中山書店	2011年
	心電図のABC	五島雄一郎	日本医師会	1999年

授業方法	講義を主体として演習も一部取り入れる 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	予習・復習を行い、多い情報量を記憶に定着させるような努力を必要とする。		

講義科目	内部系障害の理学療法学Ⅱ					
担当講師	岡住 信介				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	呼吸器疾患および悪性腫瘍の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）	№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	呼吸理学療法総論	運動と呼吸・循環反応の関係、呼吸不全の定義、呼吸の概念と呼吸リハの必要性について理解する。	16	呼吸器疾患の理学療法基本手技 ④	徒手的な呼吸介助手技の実施を経験する(パニックコントロールを含む)。
2	呼吸器系の解剖学	呼吸器系の構造、胸郭の構造、呼吸運動に関する筋について理解する。	17	酸素療法と呼吸理学療法	酸素療法の意義、目的、効果、適応、合併症、在宅酸素療法の流れについて理解する。
3	呼吸器系の運動学	呼吸運動に伴う胸郭の運動について理解する。	18	人工呼吸療法と呼吸理学療法	人工呼吸の目的、効果、人工呼吸器の構造、基本モード、管理中の呼吸理学療法について理解する。
4	呼吸器系の生理学	呼吸の役割、換気とガス交換、気道抵抗、コンプライアンスについて理解する。	19	急性・慢性呼吸不全の理学療法	急性・慢性呼吸不全の疾患、病態、胸腹部外科術後（肺・消化器がん等）の生体反応、呼吸理学療法の目的、効果について理解する。
5	動脈血液ガス検査	動脈血ガスの目的、意義、基準値、動脈血酸素化能、換気能の指標を理解する。	20	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の呼吸理学療法	慢性閉塞性肺疾患の病態、障害像(問題点)、呼吸理学療法の流れについて理解する。
6	呼吸不全の病態と呼吸器疾患	呼吸不全、酸素化不全と換気不全、急性呼吸不全と慢性呼吸不全、代表的疾患について理解する。	21	吸引の概念と理論	吸引の目的、意義、適応、生体に与える影響、標準予防策について理解する。
7	呼吸器疾患別動脈血液ガス検査	代表的呼吸器疾患の動脈血ガスの特徴、分析値の解釈、臨床病態の推測について理解する。	22	吸引演習	吸引の実施に至るまでの流れ、基本的な手順を理解し、状況に応じて実施を経験する。
8	呼吸器疾患の理学療法評価 ①	肺機能検査の目的、意義、適応、疾患別特徴について理解し、実施を経験する。	23	呼吸器疾患の解釈と統合 ①	慢性閉塞性肺疾患の病態像を想定し、それらに必要な検査・測定、優先性、結果と解釈を理解する。
9	呼吸器疾患の理学療法評価 ②	医療面接(病歴聴取・問診)、フィジカルアセスメント(視診、触診、打診、聴診)について理解する。	24	呼吸器疾患の解釈と統合 ②	慢性閉塞性肺疾患の病態像を想定し、それらに必要な検査・測定、優先性、結果と解釈を理解する。
10	呼吸器疾患の理学療法評価 ③	運動負荷試験の目的、意義、適応、ADL・QOL評価、画像所見、情報収集について理解する。	25	呼吸器疾患の解釈と統合 ③	慢性閉塞性肺疾患の病態像を想定し、それらに必要な検査・測定、優先性、結果と解釈を理解する。
11	呼吸器系の運動生理学 ①	運動時の呼吸反応、ガス交換比の変化、内分泌・代謝の生体反応について理解する。	26	呼吸器疾患の解釈と統合 ④	慢性閉塞性肺疾患を想定し、結果を統合して、問題点、目標設定、治療介入手段、予後予測を理解する。
12	呼吸器系の運動生理学 ②	運動の生理学的効果、持久力向上のメカニズム、最大酸素摂取量と運動療法について理解する。	27	呼吸器疾患の解釈と統合 ⑤	慢性閉塞性肺疾患を想定し、結果を統合して、問題点、目標設定、治療介入手段、予後予測を理解する。
13	呼吸器疾患の理学療法基本手技 ①	コンディショニングの目的、具体的方法、効果について理解し、実施する。	28	悪性腫瘍の概念と検査、進行、病期、ステージ	悪性腫瘍の概念、原因、分類、血液検査、画像検査、内視鏡検査、病理検査について理解する。
14	呼吸器疾患の理学療法基本手技 ②	運動療法の意義、運動処方(FITT)、具体的方法、効果について理解する。	29	悪性腫瘍の治療（緩和ケア含む）と理学療法	手術・放射線・化学療法、理学療法の目的・目標、緩和ケアの概要、理学療法について理解する。
15	呼吸器疾患の理学療法基本手技 ③	呼吸介助の目的、効果、排痰の目的、効果、排痰に必要な要素(物理的因子など)について理解する。	30	内部系障害の理学療法学Ⅱのまとめ	呼吸器、がんについての知識を振り返り、理解を深める。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸	玉木彰	中山書店	2017年
	内部障害理学療法テキスト 改定第3版	細田多穂	南江堂	2018年
参考図書等	標準理学療法学 内部障害理学療法学	吉尾雅春、高橋哲也	医学書院	2013年
	動画でわかる 呼吸リハビリテーション	高橋仁美、宮川哲夫、塩谷隆信	中山書店	2012年
	リハビリテーションビジュアルブック　第2版	落合慈之、稲川利光	学研	2016年

授業方法	講義を主体として演習も一部取り入れる 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	予習・復習を行い、多い情報量を記憶に定着させるような努力を必要とする。		

講義科目	小児疾患の理学療法学					
担当講師	百代 貴子				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	小児期に発症する疾患について、疾患の知識及び派生する障害像を理解するとともに、それに対するリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	正常運動発達	背臥位～腹臥位～座位～立位・微細運動の発達について理解する
2	発達・運動発達の評価	発達検査、運動発達検査、日常生活および能力障害の検査について理解する
3	正常姿勢反射の発達	中枢神経系の発達・姿勢反射について理解する
4	脳性麻痺の概論	療育の理念・脳性麻痺の定義・原因・分類について理解する
5	痙直型両麻痺の概要	痙直型両麻痺の臨床症状・異常運動発達　について理解する
6	痙直型両麻痺の理学療法	痙直型両麻痺の評価・理学療法　について理解する
7	痙直型四肢麻痺・片麻痺の概要と理学療法	痙直型四肢麻痺の臨床症状・異常運動発達・理学療法 痙直型片麻痺の臨床症状・異常運動発達・理学療法　　について理解する
8	アテトーゼ型脳性麻痺の概要と理学療法	アテトーゼ型脳性麻痺の臨床症状・異常運動発達・理学療法について理解する
9	脳性麻痺のまとめ	国家試験問題を解き、脳性麻痺に対する理解度を深める
10	子どもの遺伝性疾患の概要	Duchenne型筋ジストロフィー・その他遺伝性疾患の疾患概要について理解する
11	子どもの遺伝性疾患の理学療法	Duchenne型筋ジストロフィーの病期と理学療法について理解する
12	子どもの整形外科疾患（二分脊椎・ペルテス病など）	二分脊椎・ペルテス病・発育性股関節形成不全について理解する
13	ダウン症の病態と理学療法	ダウン症の運動発達と理学療法について理解する
14	発達障害について	発達障害の特徴と支援について理解する
15	その他の疾患・まとめ	その他の小児期に特有の疾患についての理学療法を理解する 国家試験について知識を深める

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	シンプル理学療法学シリーズ　小児理学療法学テキスト	細田多穂	南江堂	2014年
参考図書等	写真で見る乳児の運動発達	Lois Bly（著), 木本 孝子, 中村 勇 （共訳）	協同医書出版	1998年
	PTマニュアル　小児の理学療法	河村光俊	医歯薬出版	2004年
	イラストでわかる　小児理学療法学	上杉雅之	医歯薬出版	2013年

授業方法	講義中心、必要に応じて演習を取り入れる 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	予習、復習に努めてください。 授業で触れない教科書の章に関しては、発展項目として自主的に学習して下さい。		

講義科目	理学療法学技術演習Ⅰ					
担当講師	鈴木 智裕・古井 雅也・東 健太郎				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床実習で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、骨関節疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）	№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	オリエンテーション	理学療法の過程、思考過程を理解する。	16	結果の解釈２	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。
2	疾患理解１	大腿骨頸部骨折の病態について調査し、理解した内容をレポートにまとめる。	17	結果の解釈３	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。
3	症例提示１	関連シート①の説明を聞き、関連用語を理解する。症例を提示する。	18	結果の解釈４	解釈した内容をディスカッションしながら、関連シート②にまとめる。
4	症例提示２	提示された症例情報を基に、情報を整理し関連シート①にまとめる。	19	統合作業 １	最終的な生活像を総合的に考え、関連シート②の解釈にまとめる。
5	動作観察１	関連シート③の説明を聞き、取り組みを理解する。正常歩行を復習し、動画をみながら歩行分析を行う。	20	統合作業 ２	最終的な生活像を総合的に考え、関連シート②の解釈にまとめる。
6	動作観察２ 演習	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。	21	統合作業 ３	関連シート⑤の説明を聞き、取り組みを理解する。ICFにより問題点の整理を行う。
7	動作観察３	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。	22	統合作業 ４	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。
8	動作観察４	関連シート③に、動作観察した結果を記載し、思考を可視化する。	23	問題点の整理１	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。
9	仮説の立案１	動作観察の結果より、機能障害の仮説を立案する。	24	問題点の整理２	整理した問題点から真の問題点を把握し、関連シート⑤にまとめる。
10	仮説の立案２	動作観察の結果より、機能障害の仮説を立案する。	25	目標の設定 、治療プログラムの作成１	治療プログラムを考え、関連シート⑥にまとめる。
11	評価項目の選択１ 演習	大腿骨頸部骨折の病態を理解した上で、症例に必要な評価項目を列挙する。	26	目標の設定 、治療プログラムの作成２	治療プログラムを考え、関連シート⑥にまとめる。
12	評価項目の選択２ 演習	列挙した評価項目を基に症例に即した検査測定を演習する。	27	治療プログラムの実施１ 演習	立案した治療プログラムを実施する。
13	仮説の整理１	必要な評価の意義・目的を文章化し、関連シート②にまとめる。	28	治療プログラムの実施２ 演習	立案した治療プログラムを実施する。患者情報を関連シート④にまとめる。
14	仮説の整理２	必要な評価の意義・目的を文章化し、関連シート②にまとめる。	29	発表１ 演習	問題点・目標・治療プログラムを発表する。
15	結果の解釈１	結果と日常生活上の動作との繋がりを考え、その原因や根拠を解釈する。	30	発表２ 演習	問題点・目標・治療プログラムを発表する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書				
参考 図書等				

授業 方法	講義、グループワーク、実技 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験70点　提出物・授業態度30点
履修上の 注意	評価学で学んできたことを呈示症例を用いて、統合していく学習を行うので、評価学の復習を事前に行っておくこと。また、疾患像に関しても他科目と並行して理解に努めること。		

講義科目	理学療法学技術演習Ⅱ					
担当講師	仲村 匡平・古井 雅也・百代 貴子・宮野 慎太郎				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床実習で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、中枢神経疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）	№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	オリエンテーション	理学療法の過程、思考過程を理解する。脳血管疾患の病態について調査する。	16	結果の解釈２	解釈した内容をディスカッションしながら、統合記録３（右）にまとめる。
2	疾患理解１	脳血管障害の病態について調査し、理解した内容をレポートにまとめる。	17	結果の解釈３	解釈した内容をディスカッションしながら、統合記録３（右）にまとめる。
3	症例提示１	統合記録１の説明を聞き、関連用語を理解する。症例を提示する。	18	結果の解釈４	解釈した内容をディスカッションしながら、統合記録３（右）にまとめる。
4	症例提示２	提示された症例情報を基に、情報を整理し統合記録１にまとめる。	19	統合作業 １	統合記録４の説明を聞き、取り組みを理解する。最終的な生活像を総合的に考える。
5	動作観察１	統合記録２・３の説明を聞き、取り組みを理解する。正常歩行を復習し、動画をみながら歩行分析を行う。	20	統合作業 ２	最終的な生活像、達成に必要なことを考え、統合記録４（左）にまとめる。
6	動作観察２ 演習	歩行観察から実際に模倣して、問題になっている動作についてディスカッションする。	21	統合作業 ３	目標とする生活像を阻害する問題点を列挙し根拠を考える。
7	動作観察３	問題になっている動作についてディスカッションし、統合記録２にまとめる。	22	統合作業 ４	目標とする生活像を阻害する問題点を列挙し根拠を考え、統合記録４にまとめる。
8	動作観察４	問題になっている動作についてディスカッションし、統合記録２にまとめる。	23	問題点の整理１	統合記録５の説明を聞き、取り組みを理解する。ICFにより問題点の整理を行う。
9	仮説の立案１	歩行能力低下の原因をディスカッションし、統合記録３（動作観察）にまとめる	24	問題点の整理２	整理した問題点から真の問題点を把握し、統合記録５にまとめる。
10	仮説の立案２	歩行能力低下の原因をディスカッションし、統合記録３（動作観察）にまとめる	25	目標の設定 、治療プログラムの作成１	最終的な生活像の実現に向け、目標設定を考える。
11	評価項目の選択１ 演習	大腿骨頸部骨折の病態を理解した上で、症例に必要な評価項目を列挙する。	26	目標の設定 、治療プログラムの作成２	目標設定の実現に向けて、治療プログラムを考え、統合記録５にまとめる。
12	評価項目の選択２ 演習	列挙した評価項目を基に症例に即した検査測定を演習する。	27	治療プログラムの実施１ 演習	立案した治療プログラムを実施する。
13	仮説の整理１	必要な評価の意義・目的を文章化し、統合記録３（左）にまとめる。	28	治療プログラムの実施２ 演習	立案した治療プログラムを実施する。
14	仮説の整理２	必要な評価の意義・目的を文章化し、統合記録３（左）にまとめる。	29	発表１ 演習	問題点・目標・治療プログラムを発表する。
15	結果の解釈１	結果と日常生活上の動作との繋がりを考え、その原因や根拠を解釈する。	30	発表２ 演習	問題点・目標・治療プログラムを発表する。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書				
参考 図書等				

授業 方法	講義、グループワーク、実技 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験70点　提出物・授業態度30点
履修上の注意	評価学で学んできたことを呈示症例を用いて、統合していく学習を行うので、評価学の復習を事前に行っておくこと。また、疾患像に関しても他科目と並行して理解に努めること。		

講義科目	理学療法学総合学習Ⅰ					
担当講師	東 健太郎・新垣 工				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科　3年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①臨床実習の経験を元に、評価学分野、中枢系分野、運動器系分野における専門基礎科目・専門科目の知識と思考過程の統合を図り、国家試験合格に必要な総合的学力をつけることを目標とする。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）	№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	オリエンテーション①	①国家試験に合格するために必要な知識・技術を確認する ②国家試験の概要と学習方法を理解する ③学習計画を作成する	16	中枢系分野⑥ 思考過程の統合	
2	オリエンテーション②		17	中枢系分野⑦ 思考過程の統合	①国家試験問題を解き専門基礎分野、専門分野の知識を確認する（グループ学習） ②専門実地の問題を専門基礎、専門一般の知識を用いて解説する ③小テストを受け苦手分野を把握する ④すでに学習している領域の点数が低い場合は、原因を検討し再習得を図る
3	評価学分野① 基礎知識の整理	①国家試験問題を解き専門基礎分野、専門分野の知識を確認する（グループ学習） ②専門実地の問題を専門基礎、専門一般の知識を用いて解説する ③小テストを受け苦手分野を把握する ④すでに学習している領域の点数が低い場合は、原因を検討し再習得を図る	18	中枢系分野⑧ 思考過程の統合	
4	評価学分野② 基礎知識の整理		19	中枢系分野⑨ 思考過程の統合	
5	評価学分野③ 基礎知識の整理		20	中枢系分野⑩ 思考過程の統合	
6	評価学分野④ 基礎知識の整理		21	運動器系分野① 基礎知識の整理	
7	評価学分野⑤ 思考過程の統合		22	運動器系分野② 基礎知識の整理	
8	評価学分野⑥ 思考過程の統合		23	運動器系分野③ 基礎知識の整理	
9	評価学分野⑦ 思考過程の統合		24	運動器系分野④ 基礎知識の整理	
10	評価学分野⑧ 思考過程の統合		25	運動器系分野⑤ 基礎知識の整理	
11	中枢系分野① 基礎知識の整理		26	運動器系分野⑥ 思考過程の統合	
12	中枢系分野② 基礎知識の整理		27	運動器系分野⑦ 思考過程の統合	
13	中枢系分野③ 基礎知識の整理		28	運動器系分野⑧ 思考過程の統合	
14	中枢系分野④ 基礎知識の整理		29	運動器系分野⑨ 思考過程の統合	
15	中枢系分野⑤ 基礎知識の整理		30	運動器系分野⑩ 思考過程の統合	

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	指定なし			
参考図書等	随時提示を行う			

授業方法	グループ学習および個人学習を中心とする 必要に応じ講義を行う	成績評価方法	定期試験を総合し評定する。（定期試験はマークシート形式）
履修上の注意	本科目は、自己の到達点と課題を明確にできる貴重な場であり個人の積極的な学習への取り組みが求められる。　特に、他者に教えることでさらに知識・理解が深まるので、積極的な知識や思考過程の表出に努めること。		

講義科目	理学療法学総合学習Ⅱ					
担当講師	東 健太郎・新垣 工				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科　3年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①臨床実習の経験を元に、内部系分野、小児・発達系分野、心理・精神系分野における専門基礎科目・専門科目の知識と思考過程の統合を図り、国家試験合格に必要な総合的学力をつけることを目標とする。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）	№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	内部系分野① 基礎知識の整理	①国家試験問題を解き専門基礎分野、専門分野の知識を確認する（グループ学習） ②専門実地の問題を専門基礎、専門一般の知識を用いて解説する ③小テストを受け苦手分野を把握する ④すでに学習している領域の点数が低い場合は、原因を検討し再習得を図る	16	小児・発達系分野⑥ 思考過程の統合	①国家試験問題を解き専門基礎分野、専門分野の知識を確認する（グループ学習） ②専門実地の問題を専門基礎、専門一般の知識を用いて解説する ③小テストを受け苦手分野を把握する ④すでに学習している領域の点数が低い場合は、原因を検討し再習得を図る
2	内部系分野② 基礎知識の整理		17	小児・発達系分野⑦ 思考過程の統合	
3	内部系分野③ 基礎知識の整理		18	小児・発達系分野⑧ 思考過程の統合	
4	内部系分野④ 基礎知識の整理		19	小児・発達系分野⑨ 思考過程の統合	
5	内部系分野⑤ 基礎知識の整理		20	小児・発達系分野⑩ 思考過程の統合	
6	内部系分野⑥ 思考過程の統合		21	心理・精神系分野① 基礎知識の整理	
7	内部系分野⑦ 思考過程の統合		22	心理・精神系分野② 基礎知識の整理	
8	内部系分野⑧ 思考過程の統合		23	心理・精神系分野③ 基礎知識の整理	
9	内部系分野⑨ 思考過程の統合		24	心理・精神系分野④ 基礎知識の整理	
10	内部系分野⑩ 思考過程の統合		25	心理・精神系分野⑤ 基礎知識の整理	
11	小児・発達系分野① 基礎知識の整理		26	心理・精神系分野⑥ 思考過程の統合	
12	小児・発達系分野② 基礎知識の整理		27	心理・精神系分野⑦ 思考過程の統合	
13	小児・発達系分野③ 基礎知識の整理		28	心理・精神系分野⑧ 思考過程の統合	
14	小児・発達系分野④ 基礎知識の整理		29	心理・精神系分野⑨ 思考過程の統合	
15	小児・発達系分野⑤ 基礎知識の整理		30	心理・精神系分野⑩ 思考過程の統合	

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	指定なし			
参考 図書等	随時提示を行う			

授業 方法	グループ学習および個人学習を中心とする 必要に応じ講義を行う	成績評価方法	定期試験を総合し評定する。 （定期試験はマークシート形式）
履修上の注意	本科目は、自己の到達点と課題を明確にできる貴重な場であり個人の積極的な学習への取り組みが求められる。　特に、他者に教えることでさらに知識・理解が深まるので、積極的な知識や思考過程の表出に努めること。		

講義科目	理学療法学総合学習Ⅲ					
担当講師	東 健太郎・新垣 工				授業時間数	60
開講年次	昼間コース	理学療法学科　3年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①臨床実習の経験を元に、国家試験出題範囲全ての専門基礎科目・専門科目の知識の統合と思考過程の整理を図り、国家試験合格に必要な総合的学力をつけることを目標とする。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）	№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	知識の統合	①国家試験問題を解き専門基礎分野、専門分野の知識を確認する（グループ学習） ②専門実地の問題を専門基礎、専門一般の知識を用いて解説する ③小テストを受け苦手分野を把握する ④すでに学習している領域の点数が低い場合は、原因を検討し再習得を図る	16	思考過程の整理	①国家試験問題を解き専門基礎分野、専門分野の知識を確認する（グループ学習） ②専門実地の問題を専門基礎、専門一般の知識を用いて解説する ③小テストを受け苦手分野を把握する ④すでに学習している領域の点数が低い場合は、原因を検討し再習得を図る
2	知識の統合		17	思考過程の整理	
3	知識の統合		18	思考過程の整理	
4	知識の統合		19	思考過程の整理	
5	知識の統合		20	思考過程の整理	
6	知識の統合		21	思考過程の整理合	
7	知識の統合		22	思考過程の整理	
8	知識の統合		23	思考過程の整理	
9	知識の統合		24	思考過程の整理	
10	知識の統合		25	思考過程の整理	
11	知識の統合		26	思考過程の整理	
12	知識の統合		27	思考過程の整理	
13	知識の統合		28	思考過程の整理	
14	知識の統合		29	思考過程の整理	
15	知識の統合		30	思考過程の整理	

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	指定なし			
参考図書等	随時提示を行う			

授業方法	グループ学習および個人学習を中心とする 必要に応じ講義を行う	成績評価方法	定期試験を総合し評定する。 （定期試験はマークシート形式）
履修上の注意	本科目は、自己の到達点と課題を明確にできる貴重な場であり個人の積極的な学習への取り組みが求められる。　特に、他者に教えることでさらに知識・理解が深まるので、積極的な知識や思考過程の表出に努めること。		

講義科目	生活環境学					
担当講師	鈴木 智裕				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	障害や各福祉用具の特徴を理解した上で、生活環境の評価と住環境整備の流れを理解する。					

№	講義計画	行動目標（学習目標）
1	生活環境学とは	ICFにおける生活機能と環境因子におけるひと・もの・空間のつながりについて理解する。
2	法的・制度的環境	社会保障制度と介護保険制度の概要について理解する。
3	関連制度	ハートビル法、交通バリアフリー法、バリアフリデザイン、ユニバーサルデザインについて理解する。
4	生活とROM、日常生活上の注意点	①ADLに影響を及ぼすROM制限について理解する。 ②ROM制限がある場合のADL上の工夫について理解する。
5	住環境整備の流れ、対策について	住環境整備の意義、流れ、基本視点について理解する。
6	住環境整備の流れ、対策について	段差解消、手すりの設置、通行幅・スペース、建具の種類について理解する。
7	部屋別アプローチ①	アプローチ、玄関、廊下、寝室の住宅改修について理解する。
8	部屋別アプローチ②	脱衣場、洗面所、浴室、トイレ、階段の住宅改修について理解する。
9	福祉用具について	福祉用具の概念と定義、種類、選定について理解する。 または、福祉機器展へ参加する。
10	福祉用具について	福祉用具の概念と定義、種類、選定について理解する。 または、福祉機器展へ参加する。
11	介護保険と住環境整備	介護保険を利用した住宅改修と福祉用具の利用について理解する。
12	障害別住宅改修について	①脳卒中患者の住環境整備について　②脊髄損傷者の住環境整備について ③PD患者の住環境整備について
13	事例検討①	環境整備によって生活上の問題を解消する流れを考える。
14	事例検討②	環境整備によって生活上の問題を解消する流れを説明できる。
15	まとめ	まとめ

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	理学療法テキストX　生活環境論	千住秀明	神陵文庫	2006年
参考図書等				

授業方法	講義、演習、グループワークを実施。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	教科書をもとに授業内容の予習に努めること。		

講義科目	地域理学療法学演習					
担当講師	齋藤 雄一				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	１．地域リハビリテーションにおける社会制度を説明できる。 ２．地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割について説明できる。 ３．地域リハビリテーションに関わる他職種のサービスについてその概略を説明できる。					

No.	講義計画	行動目標（学習目標）
1	地域リハビリテーションの概念	①地域リハビリテーションの歴史を学び、考え方や定義を説明できる。 ②地域リハビリテーションの範疇(地域の捉え方)を説明できる。 ③地域包括ケアの概念を知る。
2	地域理学療法の概念	①3つの保健医療圏を理解する。 ②地域理学療法の役割と連携の重要性を理解する。 ③生活行為向上マネージメントの重要性を理解する。
3	地域理学療法の関連法規 ① 医療保険制度	①社会保障制度の中の位置づけを理解する。 ②医療保険制度と保険診療制度を理解する。 ③疾患別リハビリテーション制度を知る。
4	地域理学療法の関連法規 ② 障害者総合支援法	①障害者総合支援法の目的を理解する。 ②障害者総合支援法のサービスを理解する。 ③サービス利用の流れを理解する。
5	地域理学療法の関連法規 ③ 介護保険制度	①介護保険制度の目的を理解する。 ②介護サービスの流れを理解する。 ③介護サービスの種類の概要を理解する。
6	地域理学療法の実際① 入所・通所施設における理学療法	①入所施設における理学療法について説明できる。 ②通所施設における理学療法について説明できる。
7	地域理学療法の実際② 訪問における理学療法	①訪問における理学療法について説明できる。 ②福祉用具および住宅改修の活用方法を説明できる。
8	地域理学療法の実際③ 地域包括ケアにおける理学療法	①地域包括ケアシステムの概要を説明できる。 ②地域包括ケアシステムと理学療法士の役割を知る。
9	地域理学療法の実際④ 介護予防における理学療法	①NCD(認知症)予防、転倒予防の実際を知る。 ②介護予防における実践と理学療法士の役割を知る。
10	健康維持・増進における理学療法 学校保健および特別支援教育における理学療法	①健康維持・増進における理学療法士の役割および理学療法について理解できる。②学校保健および特別支援教育における理学療法士の役割および理学療法について理解できる。
11	スポーツ活動支援における理学療法	①スポーツ理学療法の概要と考え方について理解できる。 ②スポーツ活動支援における理学療法士の役割および理学療法について理解できる。③障がい者スポーツ支援の概要と考え方について理解できる。④障がい者スポーツ支援における理学療法士の役割について理解できる。
12	緩和ケア・終末期医療における理学療法	①緩和ケア・終末期医療における理学療法士の役割について理解できる。 ②緩和ケア・終末期医療における理学療法について理解できる。
13	災害時の理学療法 国際支援における理学療法 産業理学療法	①大規模災害時における活動支援の概要および理学療法士の役割について理解できる。 ②国際支援における理学療法士の役割および関わる基盤について理解できる。 ③産業理学療法における理学療法士の役割および理学療法について理解できる。
14	事例検討	①症例を通して、地域における理学療法士の役割を具体的に知る。 ②症例を通して、地域における諸サービスのつながりを理解する。 ③発表を通して、地域理学療法の具体的方法を理解する。
15	地域で働く理学療法士に必要な資質（まとめ）	①他職種連携の重要性を知る。②コミュニケーション能力の重要性を知る。 ③制度を知ることの重要性を知る。④個々のニーズを理解する柔軟性と行動力の重要性を知る。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	地域リハビリテーション学　第2版	重森健太	羊土社	2019年
参考図書等	地域リハビリテーション論Ver.7	太田仁史	三輪書店	2018年
	地域リハビリテーション学テキスト　改定第3版	備酒伸彦	南江堂	2018年
	予防と産業の理学療法	樋口由美	南江堂	2020年

授業方法	講義・演習 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験（６０％） 発表、レポート（４０％）
履修上の注意	授業前後で該当箇所について予習復習を行うことを奨励する。		

講義科目	臨床実習Ⅰ（病院見学実習）					
担当講師	理学療法学科教員 ・ 臨床教育指導者				授業時間数	45
開講年次	昼間コース	理学療法学科　1年後期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	①チーム医療における理学療法士・作業療法士の役割を理解する。 ②代表的な疾患の症状や現象を観察する。 ③代表的な疾患に対する評価や治療を観察する。					

講義計画（講義内容を含む）

【見学の概要】
チーム医療について学び、リハビリテーションの専門職としての知識・技術の重要性・必要性を確認することで、病院で働く理学療法士・作業療法士の仕事や役割について理解し、職業人として望ましい行動や態度を取ることができるように注意して行動する。この経験によって、自身の将来像を具体化し、課題の再確認と動機を高めることを期待する。

教育目標①「チーム医療における理学療法士・作業療法士の役割を理解する。」に対する行動目標
（認知領域）チーム医療について理解する。
（認知領域）チーム医療における理学療法士・作業療法士の立場と役割を理解する。
（認知領域）チーム医療における他専門職の立場と役割を理解する。
（認知領域）病院で働く理学療法士・作業療法士の１日の仕事の流れを理解する。
（運動領域）対象者との関係性構築に務める。

教育目標②「代表的な疾患の症状や現象を観察する。」に対する行動目標
（情意領域）実習生として相応しい身だしなみを整えることができる。
（情意領域）医療従事者として自覚を持ち、患者に対し相応しい態度や対応がとれる。
（情意領域）状況に即した言動を取ることができる。
（認知領域）代表的な疾患の症状・現象について見学し、自分の考えを他者に伝える。
（運動領域）必要に応じてメモに書き留めることができる。

教育目標③「代表的な疾患に対する評価や治療を観察する。」に対する行動目標
（情意領域）実習生として相応しい身だしなみを整えることができる。
（情意領域）医療従事者として自覚を持ち、患者に対し相応しい態度や対応がとれる。
（情意領域）状況に即した言動を取ることができる。
（認知領域）代表的な疾患に対する評価や治療を見学して、自身の考えを他者に伝える。
（認知領域）理学療法及び作業療法の一連の流れを理解する。
（運動領域）必要に応じてメモを書き留めるができる。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	特に指定しない			
参考図書等	標準理学療法学 臨床実習とケーススタディ 第3版	鶴見隆正	医学書院	2020年

授業方法	学内実習及び施設実習	成績評価方法	個人評定表を用いて学内取り組み及び施設実習を総合的に評価
履修上の注意	目的を明確にして、自主性をもって取り組むこと。		

講義科目	臨床実習Ⅱ（地域見学実習）					
担当講師	理学療法学科教員 ・ 臨床教育指導者				授業時間数	45
開講年次	昼間コース	理学療法学科　2年後期	実務経験	地域医療にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	①　地域包括ケアシステムにおける実習施設の役割を理解し説明できる。 ②　実習施設における理学療法士・作業療法士および他専門職の役割を理解する。 ③　学校および実習施設の規則に従って自覚を持った行動がとれる。 ④　実習施設における理学療法・作業療法業務の一部経験する。					

講義計画（講義内容を含む）

【地域実習の概要】

地域包括ケアシステムの強化に資する高度医療人材を育成することを目的に地域実習を行う。地域実習では、１年次から２年次後期までに学習した、理学療法・作業療法に関する基礎的な知識と地域リハビリテーションの知識を基に、実習施設において実習指導者の指導・監督の下、理学療法・作業療法業務の見学や一部の業務について補助的に関わることを体験する。この体験を通して、対象者へ接する「態度」や「対応」を育むとともに、地域包括ケアシステムにおける理学療法士・作業療法士の責任と自覚を培う。

教育目標①「地域包括ケアシステムにおける実習施設の役割を理解し説明できる。」に対する行動目標

（認知領域）地域包括ケアシステムが構築された背景を説明できる。
（認知領域）地域包括ケアシステムの目的を説明できる。
（認知領域）地域包括ケアシステムにおける通所又は訪問リハビリテーションの役割を説明できる。

教育目標②「実習施設における理学療法士・作業療法士および他専門職の役割を理解する。」に対する行動目標

（認知領域）通所又は訪問リハビリテーションで従事している理学療法士・作業療法士の役割を説明できる。
（認知領域）通所又は訪問リハビリテーションで従事している他専門職の役割を説明できる。

教育目標③「学校および実習施設の規則に従って自覚を持った行動がとれる。」に対する行動目標

（情意領域）実習生として相応しい身だしなみを整えることができる。
（情意領域）提出物を期限内に提出することができる。
（情意領域）学校および施設の規則やスケジュールに従って行動することができる。
（情意領域）実習指導者と十分にコミュニケーションを図り、良好な関係を構築・維持できる。
（情意領域）他専門職と関わり、良好な関係を構築・維持できる。
（情意領域）医療従事者として自覚を持ち、感染対策を意識した行動がとれる。

教育目標④「実習施設における理学療法・作業療法業務の一部経験する。」に対する行動目標

（情意領域）医療従事者として自覚を持ち、対象者に対し相応しい態度や対応がとれる。
（情意領域）対象者と十分にコミュニケーションを図り、良好な関係を構築・維持できる。
（運動領域）対象者の一般的情報をカルテ等から収集し、問題点や目標について実習指導者へ考えを述べることができる。
（運動領域）学内で学んだ知識・技術を活かし、実習指導者の管理下のもと一部の業務が補助できる。

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	特に指定しない			
参考図書等	標準理学療法学　臨床実習とケーススタディ　第3版	鶴見隆正	医学書院	2020年

授業方法	学内実習及び施設実習	成績評価方法	個人評定表を用いて学内取り組み及び施設実習を総合的に評価
履修上の注意	目的を明確にして、自主性をもって取り組むこと。		

講義科目	臨床実習Ⅲ（評価実習）					
担当講師	理学療法学科教員 ・ 臨床教育指導者				授業時間数	360
開講年次	昼間コース	理学療法学科　3年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	8
教育目標	①対象者を尊重し、共感的、傾聴的態度をもって接することができる ②職場における理学療法士・作業療法士の役割と責任について理解する ③理学療法・作業療法における臨床評価の流れを経験し、理解する ④指導者の監視下において、学生により実施されるべき項目の検査・測定およびリスク管理や観察を実践することができる					

講義計画（講義内容を含む）

【評価実習の概要】
実習施設の理学療法・作業療法診療に参加し、臨床実習教育者からの指導を通じて、理学療法士・作業療法士の役割・チーム医療について学ぶ。
また、臨床教育者の指導のもとに情報収集や観察、対象者に適した評価を見学から模倣、実施を経験することで学内で学んだ知識と実技を統合する。

【行動目標】
①理学療法士・作業療法士としての基本的資質を習得する
②医療従事者として思慮深く考え、責任ある言動をとることができる
③学内で学んだ原理知識を臨床場面で活かすことができる
④問題意識をもって知識を深めることができる
⑤臨床実習教育者の指導の下、原理・原則を理解し安全な検査・測定、評価を理解できる
⑥臨床実習教育者の指導の下、原理・原則を理解し安全な介入技術を理解できる
⑦検査・測定、評価、介入技術において必要な準備ができ、リスク管理について理解できる

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	関連図書や文献を適宜用いること			
参考図書等	関連図書や文献を適宜用いること			

授業方法	臨床現場において診療参加型の実習を行う 臨床実習指導者による管理下で行う	成績評価方法	・情意領域 ・認知チェックリスト ・経験チェックリスト より評定する。
履修上の注意	別途実習の手引きを把握して臨むこと 臨床実習施設の規定を遵守すること		

講義科目	臨床実習Ⅳ（総合臨床実習）					
担当講師	理学療法学科教員 ・ 臨床教育指導者				授業時間数	450
開講年次	昼間コース	理学療法学科　3年前期	実務経験	病院にて理学療法士としての実務経験あり	単位数	10
教育目標	臨床実習指導・監督の下で、典型的な障害特性を呈する対象者に対して、 ①臨床教育者の理学療法・作業療法の臨床思考過程を説明し、理学療法・作業療法の計画立案ができる ②臨床教育者に許可された臨床技能を実施できる					

講義計画（講義内容を含む）

【総合実習の概要】

臨床実習Ⅳは、総合臨床実習の位置付けで、実習前評価・臨床実習・実習後評価で構成している。

実習前評価は、感染症対策および医療安全管理・個人情報保護の重要性を学習する。

また、実習前の準備として、医療面接および評価・治療・技術および基本的臨床技能を確認するために、学内で知識評価と実技試験を診断的評価として実施する。

実習施設では、診療参加型実習として臨床実習教育者からの指導を通して、理学療法士・作業療法士の役割・チーム医療について学ぶ。また、臨床実習教育者の指導の下、情報収集や観察・対象者に適した評価の見学、模倣、実施を通して経験を積み上げていく。また、得られた検査結果の解釈を行い、問題点の抽出、治療目標・治療計画を立案する一連の流れについてより具体的に経験・学習する。

実習後評価は、実習施設で経験した内容をもとに、自己の思考をまとめて、臨床実習経験報告会という機会を設けて、プレゼンテーションを実施する。

【実習前後評価の概要】

実習前評価

臨床実習IV(総合臨床実習)前に、実習に臨む学生の情意領域、認知領域、精神運動領域に
ついて、学生の準備状態を把握し、実習施設での指導計画を立案するために行う。

・情意領域…学校生活の状況
・認知領域…知識試験の実施
・精神運動領域…技能試験(OCSE)の実施

実習後評価

臨床実習IV(総合臨床実習)終了後に、実習生の学習を総括的に評価するために行う。

・臨床実習経験報告会の実施

【行動目標】

①臨床実習Ⅲの目的を基底とする
②臨床実習教育者の指導の下、理学療法・作業療法における治療計画立案のために、仮設の立案・立証ができる
③臨床実習教育者の指導の下、理学療法・作業療法における治療計画立案のために、得られた結果について解釈し、優先性を踏まえて統合することができる
④臨床実習教育者の指導の下、対象者の生活像を想定した目標を設定し、整合性のある治療介入プログラムを立案できる

	書籍名	著者	出版社	発行年
教科書	関連図書や文献を適宜用いること			
参考 図書等	関連図書や文献を適宜用いること			

授業 方法	臨床現場において診療参加型の実習を行う 臨床実習指導者による管理下で行う	成績評価方法	・情意領域　・認知チェックリスト ・経験チェックリスト　・経験報告会 を全て総括して評定する
履修上の 注意	別途実習の手引きを把握して臨むこと 臨床実習施設の規定を遵守すること		